

平成21年度(2)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「農林水産業の現状と将来に向けた取組」

平成21年10月

も く じ

調査の概要	1
調査結果	
1 農林水産業に関する意識	3
2 我が国の食料自給率と地産地消	5
3 農林水産業が有する多面的機能	12
4 中山間地域における農林水産業の振興	14
5 農地の保全	16
6 食育の推進	17
7 農林水産業に関する新たな動き	19
8 農林水産業への関わり	22
9 本県の農林水産行政への期待	24
10 自由意見	26
質問と回答	36

調査の概要

1 調査のテーマ

農林水産業の現状と将来に向けた取組

2 調査の趣旨

安全で良質な農林水産物が確保され、自然に恵まれた環境の中で生活できることは、豊かな暮らしの基本です。

しかし、我が国の食料自給率は、カロリーベースで40%と先進国の中で最も低く、また、近年では輸入食品による健康被害の発生や、食品の産地偽装事件など、食の安全を揺るがす問題が発生しています。

私たちが将来にわたって豊かな生活を続けていくためには、安全で美味しい食料の安定的な供給を確保するとともに、森林、農地、海、川が持つ水源かん養や景観形成などの様々な機能（多面的機能）をバランスよく発揮させることが重要です。

このためには、すべての県民が、同じ県土で暮らす生活者として農林水産業に関心を持ち、これに積極的に関わっていくことが大切であると考えています。

そこで、今回のアンケートでは、本県の農林水産業に関する県民の皆様の意向などを把握し、今後の農林水産行政の基礎資料として活用するため、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

3 調査対象

県政モニター 499人（平成21年6月29日現在）

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	499人	100.0%	154人	189人	156人	
性 別	男 性	243	48.7	74	93	76
	女 性	256	51.3	80	96	80
年 代 別	20 代	74	14.8	23	30	21
	30 代	106	21.2	31	42	33
	40 代	88	17.6	23	32	33
	50 代	86	17.2	25	30	31
	60 代 以上	145	29.1	52	55	38

4 調査期間

平成21年6月29日から平成21年7月12日まで

5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

6 回答者数

495人（回収率99.2%）

【記号・符号・用語の説明】

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

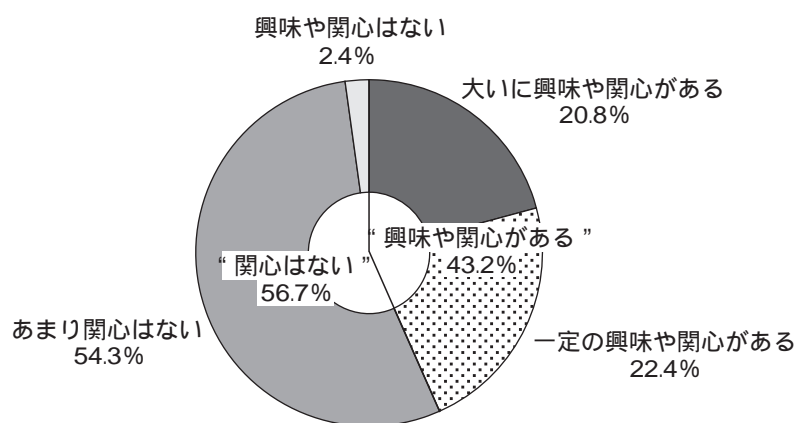
調査結果

1 農林水産業に関する意識

問1 本県は、自動車産業に代表される工業が盛んな工業県のイメージがありますが、平成19年の農業産出額は全国5位を誇るなど、農林水産業（一次産業）も盛んな県です。

あなたは、本県を含め、我が国の農林水産業に関することについて、どの程度、興味や関心がありますか。（回答は1つ）

N = 495

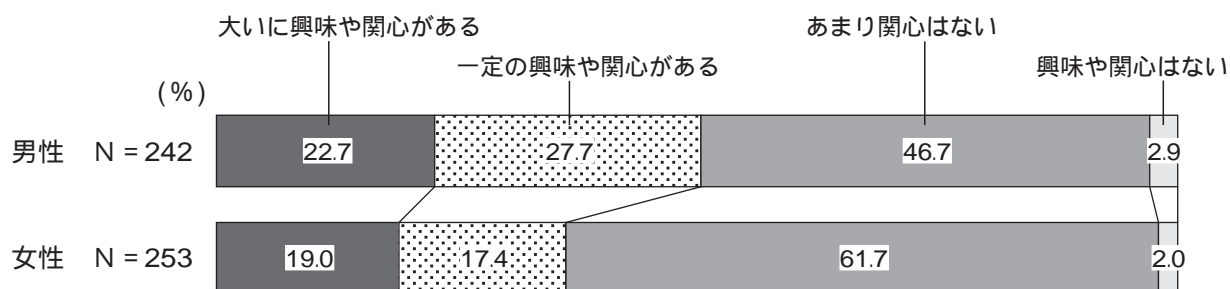


農林水産業に関する興味や関心について尋ねたところ、「大いに興味や関心がある」が20.8%、「一定の興味や関心がある」が22.4%で、これらを合わせた「興味や関心がある」が43.2%に対し、「あまり関心はない」が54.3%、「興味や関心はない」が2.4%で、これらを合わせた「関心はない」は56.7%となっている。

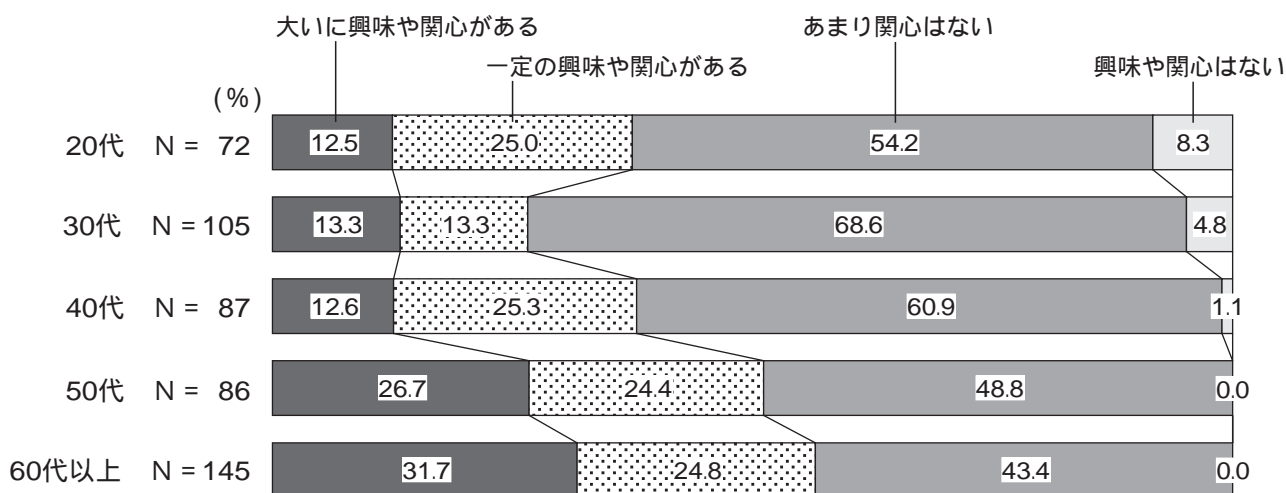
男女別にみると、「興味や関心がある」と答えた人の割合は男性で高くなっている。

年代別にみると、「興味や関心がある」と答えた人の割合は60代以上で高くなっている。

(男女別)



(年代別)



農林水産業は食料等の供給だけでなく、その生産の場である農地や森林、海、川などが適切に管理・保全されることで、緑と水に恵まれた豊かな生活環境を私たちに提供してくれる重要な産業です。

農林水産業に関して「興味や関心がある」と答えた人の割合は約4割と、半数を下回る結果となりました。

都市化の進展により、身近に農林水産業に関わる機会は減少する傾向にありますが、農林水産業への興味や関心が高まるよう、様々な情報を積極的に発信していきたいと考えています。

(農林水産部農林政策課)

2 我が国の食料自給率と地産地消

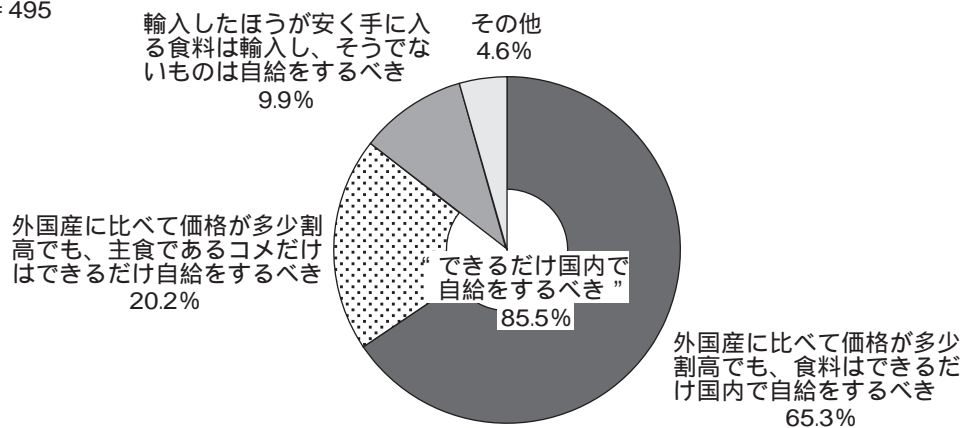
問2 現在、我が国は世界中の国・地域から食料を輸入し、豊かな食生活を実現していますが、その一方で、日本のカロリーベースの食料自給率（ ）は40%まで低下し、主要先進国中で最低となっています。

あなたは、将来の我が国の食料供給のあり方について、どのようにすべきだと思いますか。

(回答は1つ)

〔 カロリーベースの食料自給率：日本国内で食べられている食料のうち、日本国内で生産された食料が、カロリー（熱量）換算でどのくらいの割合であるのかを示す指標。 〕

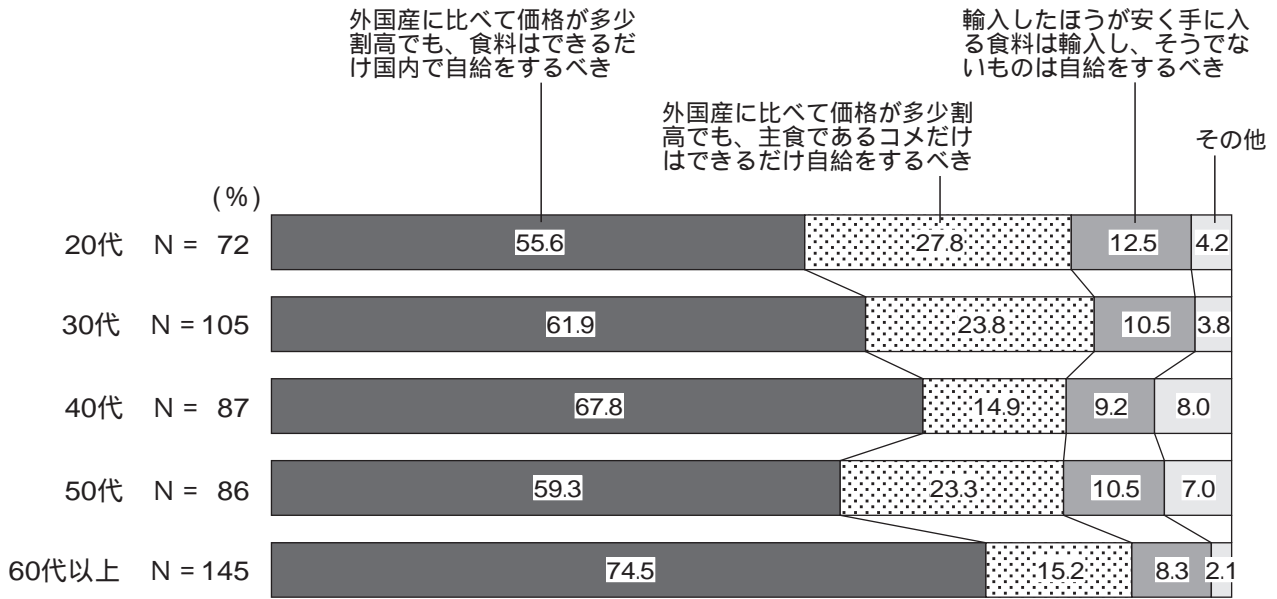
N = 495



将来の食料供給のあり方について尋ねたところ、「外国産に比べて価格が多少割高でも、食料はできるだけ国内で自給をするべき」が65.3%、「外国産に比べて価格が多少割高でも、主食であるコメだけはできるだけ自給をするべき」が20.2%で、これらを合わせた“できるだけ国内で自給をするべき”が85.5%に対し、「輸入したほうが安く手に入る食料は輸入し、そうでないものは自給をするべき」が9.9%となっている。

年代別にみると、「外国産に比べて価格が多少割高でも、食料はできるだけ国内で自給をするべき」と答えた人の割合は60代以上で高くなっている。

(年代別)



「外国産に比べて価格が多少割高でも、食料はできるだけ国内で自給をするべき」と回答した人の割合は65.3%で、平成17年に実施した県政モニターアンケート調査に比べて13ポイント高くなりました。

また、「外国産に比べて価格が多少割高でも、主食であるコメだけはできるだけ自給をするべき」を含めると、8割を超える人が食料は“できるだけ国内で自給をするべき”と回答しています。

我が国の食料自給率が低下した主な原因は、国内で自給できるコメの消費が減り、原料の大部分を輸入に依存する畜産物や油脂類を多く食べるようになったという食生活の変化によるものです。

本県では、コメを中心とした日本型食生活の啓発や地産地消の推進に取り組んでいます。今後とも、県民の皆様に地元の農林水産物を大いに食べていただくよう努めていきたいと考えています。

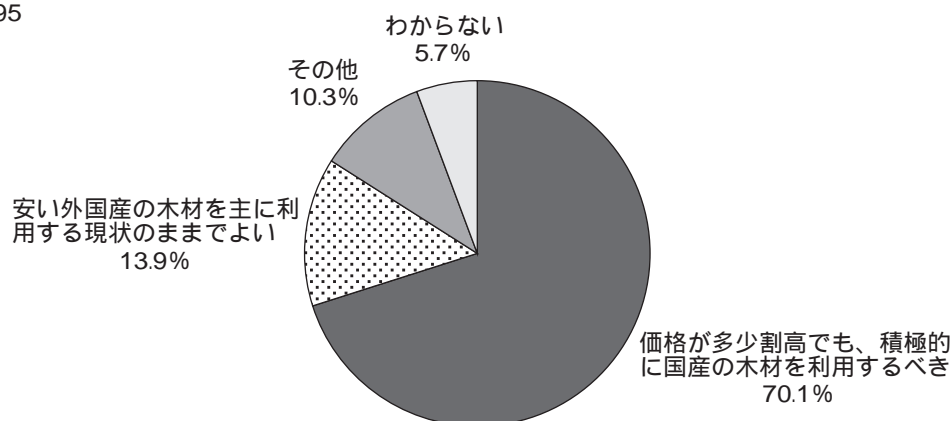
(農林水産部農林政策課)

問3 我が国では、戦後植林されたスギやヒノキ等の人工林が十分に生長し、伐採して利用することが可能な時期を迎えています。にもかかわらず、我が国の林業は採算性が低いため、国産材は十分に利用されず、平成19年の木材の自給率は22.6%に止まり、国内で使用されている木材は安い外国産材が多くを占めています。

あなたは、今後の我が国の木材の利用について、どのような姿が望ましいと思いますか。

(回答は1つ)

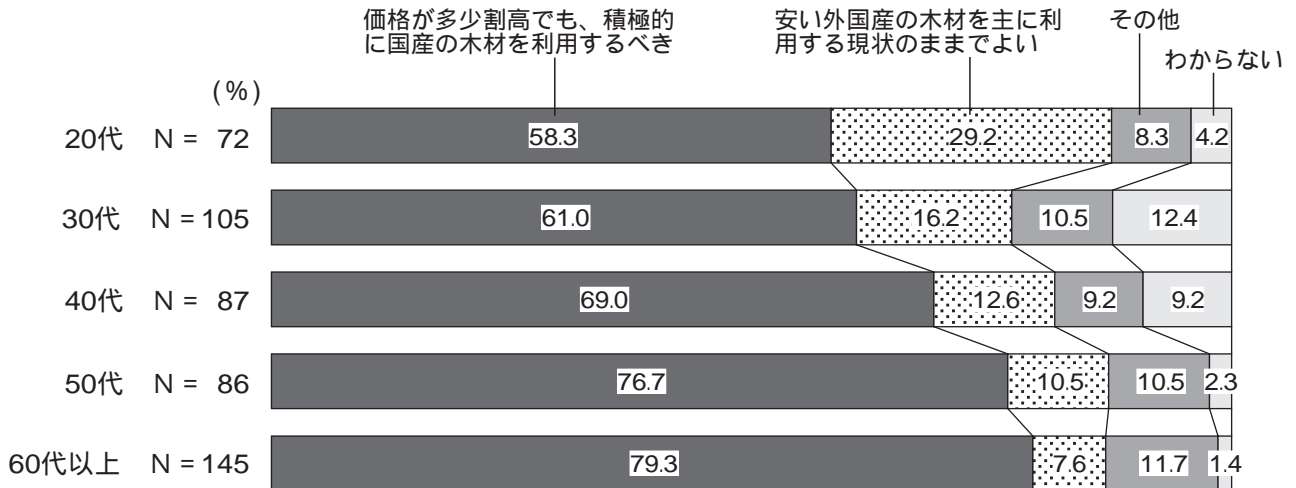
N = 495



今後の木材の利用について尋ねたところ、「価格が多少割高でも、積極的に国産の木材を利用すべき」が70.1%であるのに対し、「安い外国産の木材を主に利用する現状のままでよい」が13.9%となっている。

年代別にみると、「価格が多少割高でも、積極的に国産の木材を利用すべき」と答えた人の割合は高齢になるほど高くなっている。

(年代別)



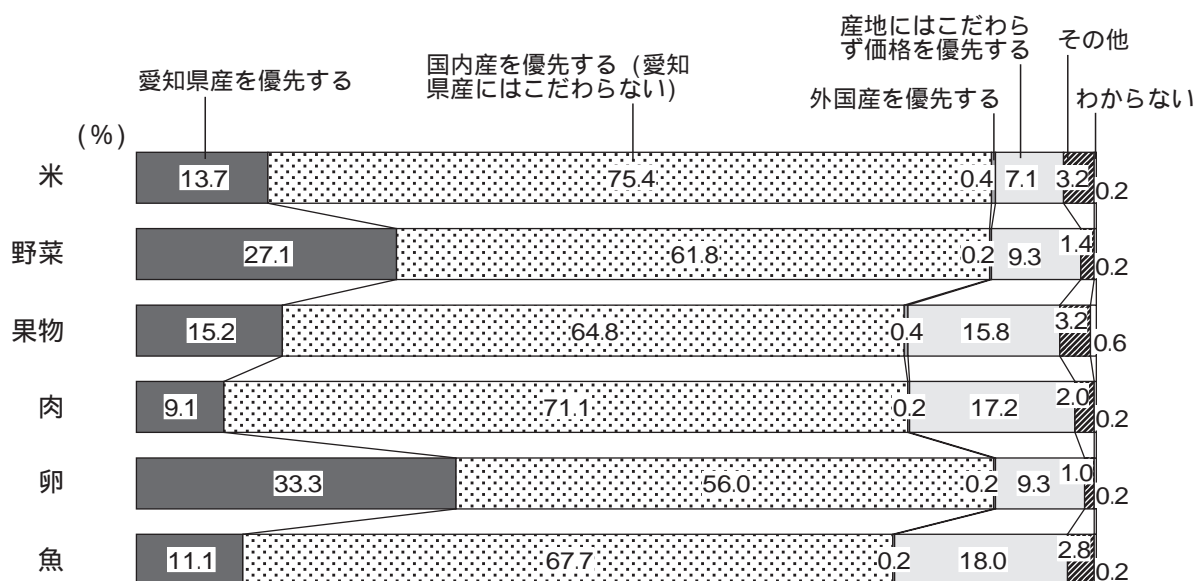
「価格が多少割高でも、積極的に国産の木材を利用すべき」と回答した人が約7割を占めました。

森林は、木材の供給以外にも国土の保全や水源のかん養に役立ちますし、国産材の利用を促進することは、健全な森林の整備・保全や炭素固定による地球温暖化の防止につながります。

本県では、県有施設における県産材利用の促進等により県産材の活用に努めるとともに、高性能林業機械の導入や流通体制の整備等を通じて木材生産等のコスト削減を図り、安価な外国産材との価格差を縮めて実需者が利用しやすくなるよう取り組んでいます。今後とも、県産材を始めとする国産の木材を積極的に利用していただくよう努めていきたいと考えています。

(農林水産部農林基盤担当局林務課)

問4 あなたは、次の農産物等（米、野菜、果物、肉、卵、魚）の産地が明らかな場合、どのような産地を優先して購入しますか。それぞれ1つ回答



6つの農産物について、どのような産地を優先して購入するかを尋ねたところ、「愛知県産を優先する」については、「卵」が33.3%、「野菜」が27.1%と割合が高くなっている。

「国内産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」については、「米」が75.4%、「肉」が71.1%と割合が高くなっている。

「愛知県産を優先する」と「国内産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」を合わせた“国内産を優先する”については、「卵」が89.3%、「米」が89.1%、「野菜」が88.9%と割合が高くなっている。

一方、「外国産を優先する」については、すべて1%未満となっている。また、「産地にはこだわらず価格を優先する」については、「魚」が18.0%、「肉」が17.2%、「果物」が15.8%と割合が高くなっている。

本県は野菜の生産が全国第5位、鶏卵が全国第4位（平成19年実績、産出額ベース）と高い生産を誇っていますが、それらの品目では「愛知県産を優先する」と回答した人の割合が高くなっています。

また、平成9年に実施した県政モニターアンケート調査では「産地にはこだわらない」と回答した人の割合が各品目で3～5割ありましたが、今回の調査ではすべて2割以下と、産地に対する意識の高まりが見られます。

産地名を始めとする食品表示は、消費者が食料品を購入する際の重要な要素ですので、JAS法に基づく食品表示の適正化を今後とも推進していく必要があると考えています。

(農林水産部農林政策課)

問5 愛知県は、名古屋市を始めとする大消費地と、農林水産物の生産地が近いという特徴があります。そこで、愛知県の農林水産業が果たしている役割を県民の方々に理解していただき、地元で取れた農林水産物を地元で消費する“地産地消”の取組として、「いいともあいち運動」()を推進しています。

あなたは、この「いいともあいち運動」を知っていましたか。(回答は1つ)

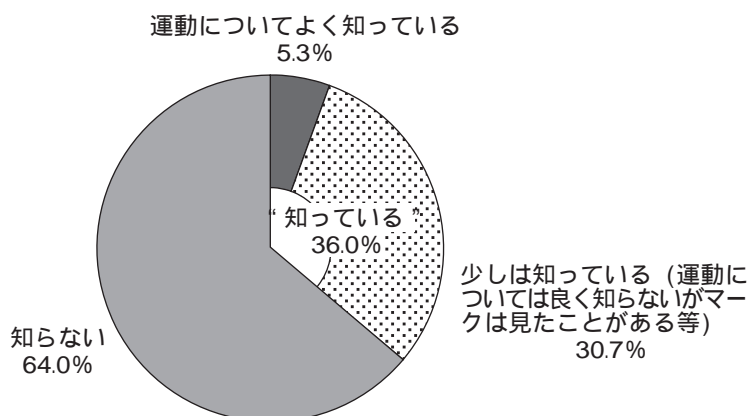
いいともあいち運動

愛知県産品をもっと食べ(イート モア アイチ プロダクツ)、
消費者と生産者が今まで以上に“いい友”関係になることを
目指す運動です。



(シンボルマーク)

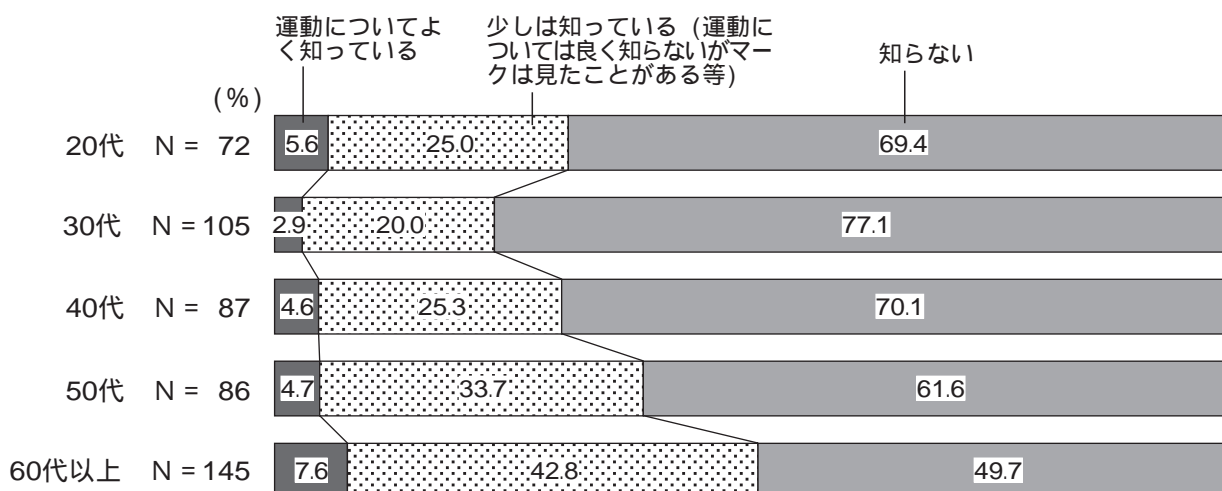
N = 495



「いいともあいち運動」を知っていたかについて尋ねたところ、「運動についてよく知っている」が5.3%、「少しは知っている」が30.7%で、これらを合わせた“知っている”が36.0%に対し、「知らない」が64.0%となっている。

年代別にみると、「運動についてよく知っている」、「少しは知っている」と答えた人の割合は60代以上で高くなっている。

(年代別)



「いいともあいち運動」は、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい（利用していただきたい）という“地産地消”の取組で、今回の調査では、約4割の方から“知っている”との回答がありました。

しかし、運動についてよく知っているとの回答は5.3%で、まだ認知度は低い状況にあります。

今後とも、「いいともあいち運動」をもっと知っていただくよう、県産農林水産物を使った商品にシンボルマークを貼ったり、社員食堂やレストラン等において、地産地消メニューの提供やその日に使っている県産農林水産物を表示するなどの取組を行い、その輪を広げてまいります。

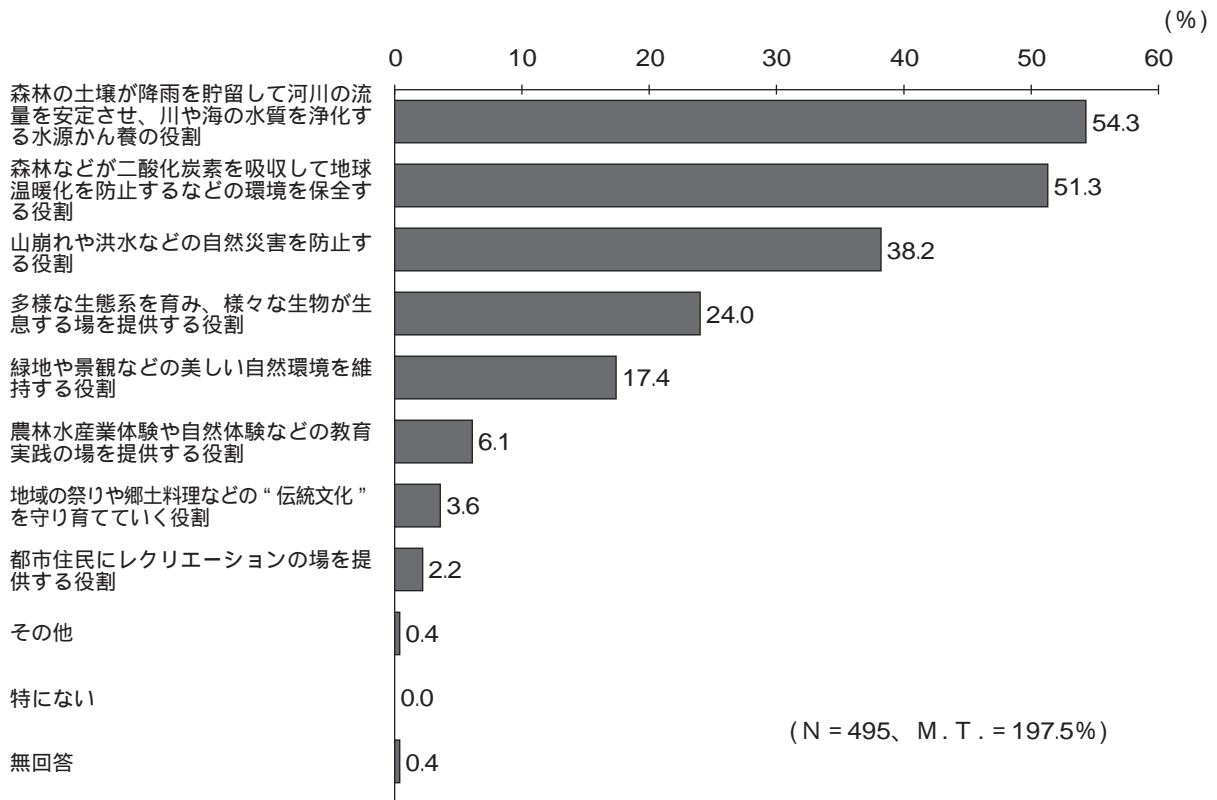
(農林水産部食育推進課)

3 農林水産業が有する多面的機能

問6 農林水産業や農山漁村には、食料等を生産する機能のほかに、洪水を防いだり、美しい景観を保つなどの多面的機能があります。

あなたは、こうした多面的機能の中で、特にどのような役割を期待しますか。

(回答は2つ以内)



農林水産業や農山漁村のもつ多面的機能の中で、特にどのような役割を期待するかを尋ねたところ、「森林の土壌が降雨を貯留して河川の流量を安定させ、川や海の水質を浄化する水源かん養の役割」が54.3%、「森林などが二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなどの環境を保全する役割」が51.3%、「山崩れや洪水などの自然災害を防止する役割」が38.2%、「多様な生態系を育み、様々な生物が生息する場を提供する役割」が24.0%などとなっている。

森林が持つ水源かん養機能や二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止等に対する期待が特に高い結果となりました。

多面的機能の価値については、農産物のように直接貨幣で取引される物ではないため、実感が沸きにくい面がありますが、国が試算した結果に基づいて本県の多面的機能を貨幣評価すると、その額は年間約1兆2千億円にもなります。

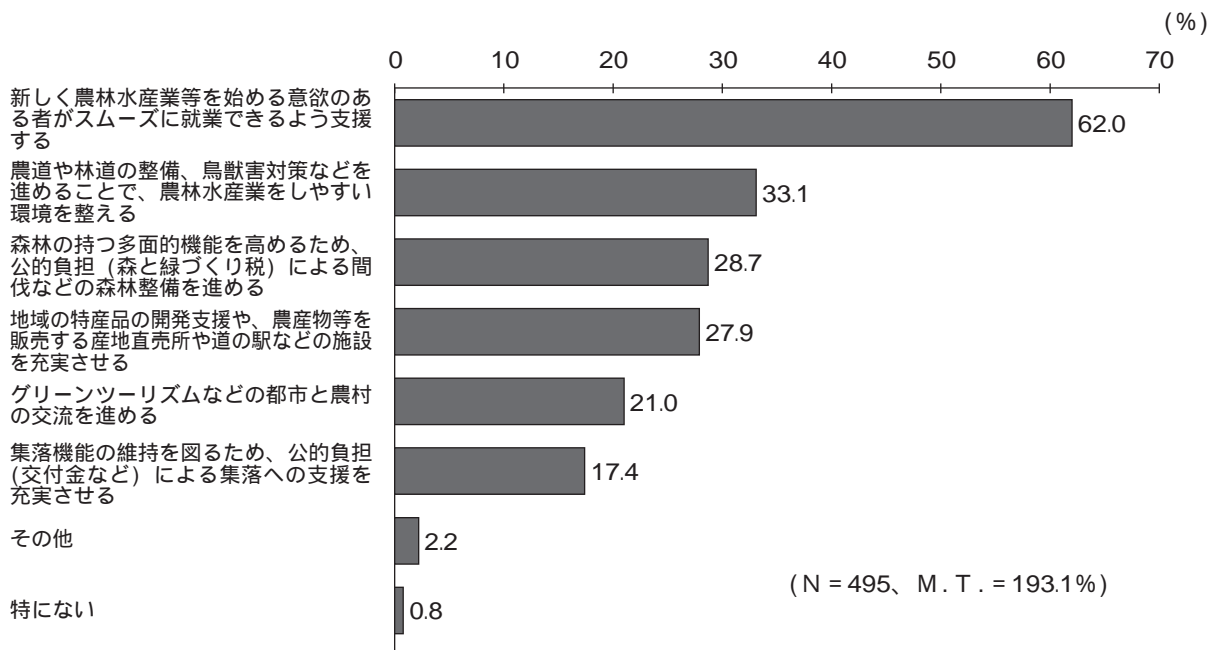
本県では、これらの多面的機能が適切に発揮されるよう、森林、農地、海及び川の保全に取り組んでいくとともに、その重要性について県民のみなさんに知っていただく機会を作っていきたいと考えています。

(農林水産部農林政策課)

4 中山間地域における農林水産業の振興

問7 本県の奥三河地域などの中山間地域では、傾斜地が多く農地が狭いなど条件が厳しいため、農林業の担い手が育たず過疎化や高齢化が進み、耕作放棄地や手入れが行き届かない森林が増加したり、サルやイノシシなどの野生鳥獣に農林水産物が食べられてしまうなどの様々な問題に直面しています。

あなたは、中山間地域における農林水産業について、今後どのような対応をすべきと考えますか。(回答は2つ以内)



中山間地域における農林水産業について、今後どのような対応をすべきと考えるかを尋ねたところ、「新しく農林水産業等を始める意欲のある者がスムーズに就業できるよう支援する」が62.0%、「農道や林道の整備、鳥獣害対策などを進めることで、農林水産業をしやすい環境を整える」が33.1%、「森林の持つ多面的機能を高めるため、公的負担(森と緑づくり税)による間伐などの森林整備を進める」が28.7%、「地域の特産品の開発支援や、農産物等を販売する産地直売所や道の駅などの施設を充実させる」が27.9%などとなっている。

「新しく農林水産業等をはじめ意欲のある者がスムーズに就業できるよう支援する」と回答した人の割合が62.0%と、際立って高い結果となりました。近年、農山漁村やそこでの暮らしについての魅力が様々な媒体を通してPRされており、新たに農林水産業を始めたいと考えている人も増加傾向にあると思われます。

本県では、中山間地域での就業を希望する人が円滑に定着し、地域の農林水産業を担っていけるよう、就農や定住に対する支援、特産品開発などによる地域の魅力の創出、その魅力を外部へ発信するための都市農村交流などの施策を通じて、中山間地域の振興に努めていきたいと考えています。

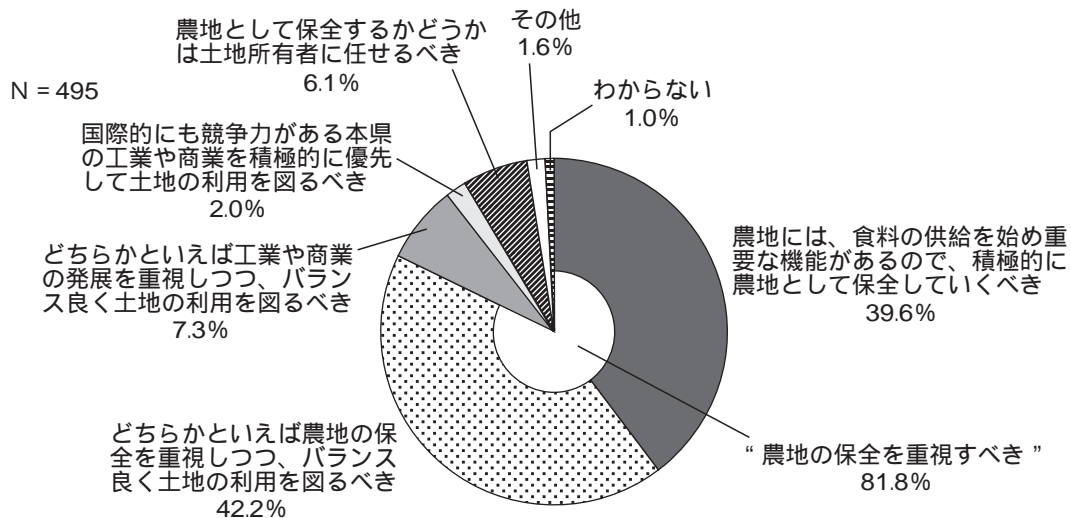
(農林水産部農業振興課)

5 農地の保全

問8 愛知県は、名古屋市を中心とする大都市圏にありながら、消費者に近い場所でも農業生産が行われています。

この生産活動を続けるためには優良な農地が欠かせませんが、一方では、住宅や工場を始めとする様々な用途のための土地も必要とされています。

あなたは、現在農地となっている土地の保全や利用についてどう思いますか。(回答は1つ)



現在農地となっている土地の保全や利用についてどう思うかを尋ねたところ、「農地には、食料の供給を始め重要な機能があるので、積極的に農地として保全していくべき」が39.6%、「どちらかといえば農地の保全を重視しつつ、バランス良く土地の利用を図るべき」が42.2%で、これらを合わせた“農地の保全を重視すべき”が81.8%に対し、「どちらかといえば工業や商業の発展を重視しつつ、バランス良く土地の利用を図るべき」が7.3%などとなっている。

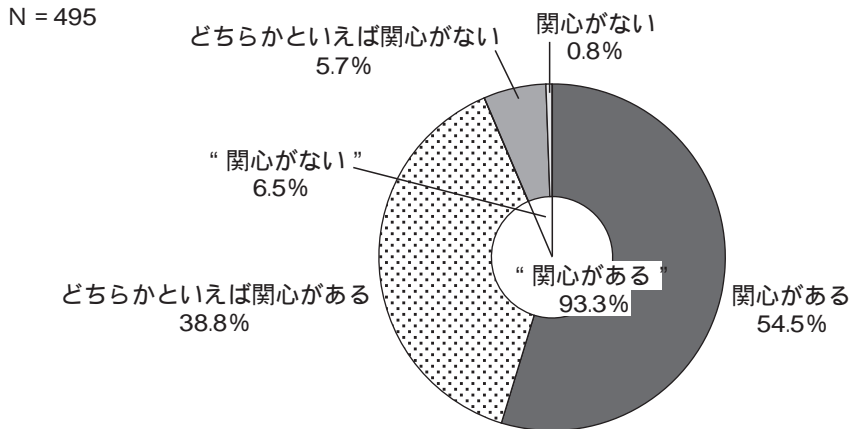
8割を超える人が“農地の保全を重視すべき”と回答しています。

農地は農業生産の基盤であり、一度農地以外に転用されると、容易には元に戻すことができませんので、今後とも優良な農地の保全に努めていきたいと考えています。(農林水産部農業振興課)

6 食育の推進

問9 あなたは、「食育」()に関心がありますか。(回答は1つ)

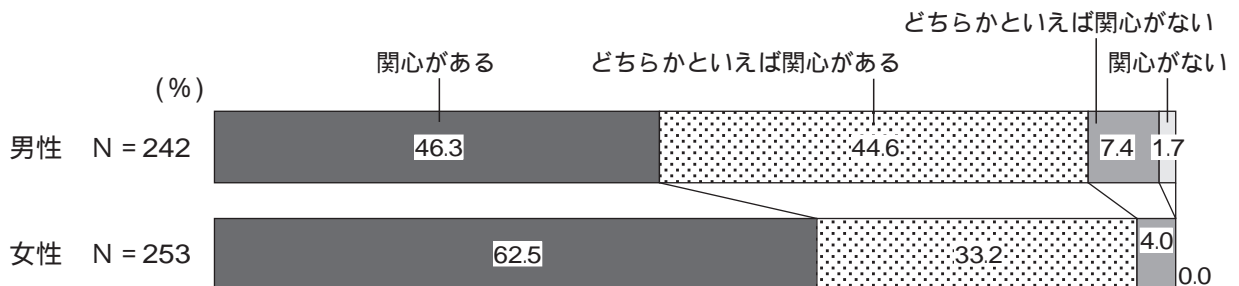
「食育」とは、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身につけたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることのできる人間を育てることです。



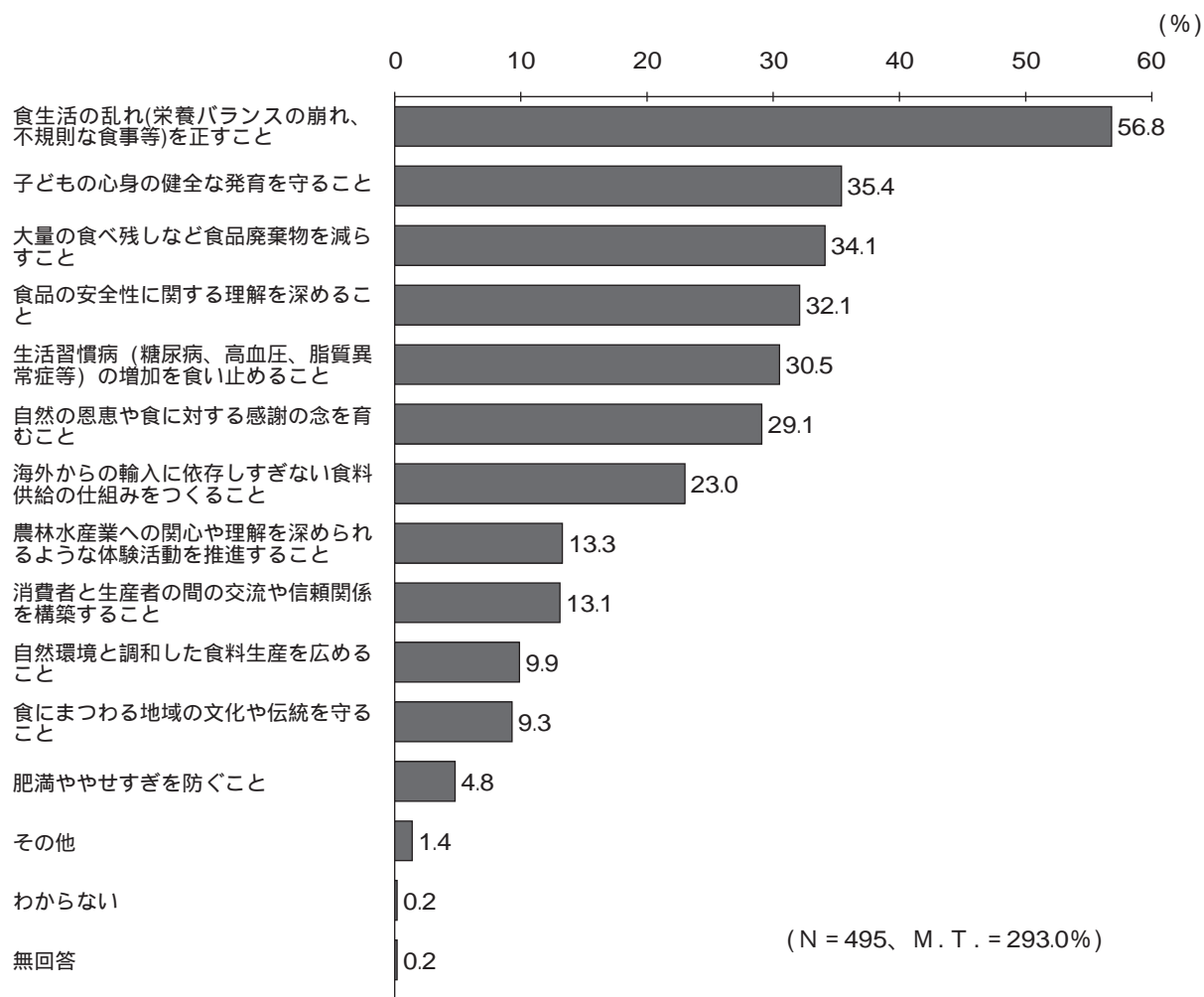
「食育」に関心があるかを尋ねたところ、「関心がある」が54.5%、「どちらかといえば関心がある」が38.8%で、これらを合わせた“関心がある”が93.3%に対し、「どちらかといえば関心がない」が5.7%、「関心がない」が0.8%で、これらを合わせた“関心がない”は6.5%となっている。

男女別にみると、“関心がある”と答えた人の割合は女性で高くなっている。

(男女別)



問10 あなたは、「食育」を推進するためには、何が重要だと思いますか。(回答は3つ以内)



「食育」を推進するためには、何が重要であると思うかを尋ねたところ、「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)を正すこと」が56.8%、「子どもの心身の健全な発育を守ること」が35.4%、「大量の食べ残しなど食品廃棄物を減らすこと」が34.1%、「食品の安全性に関する理解を深めること」が32.1%などとなっている。

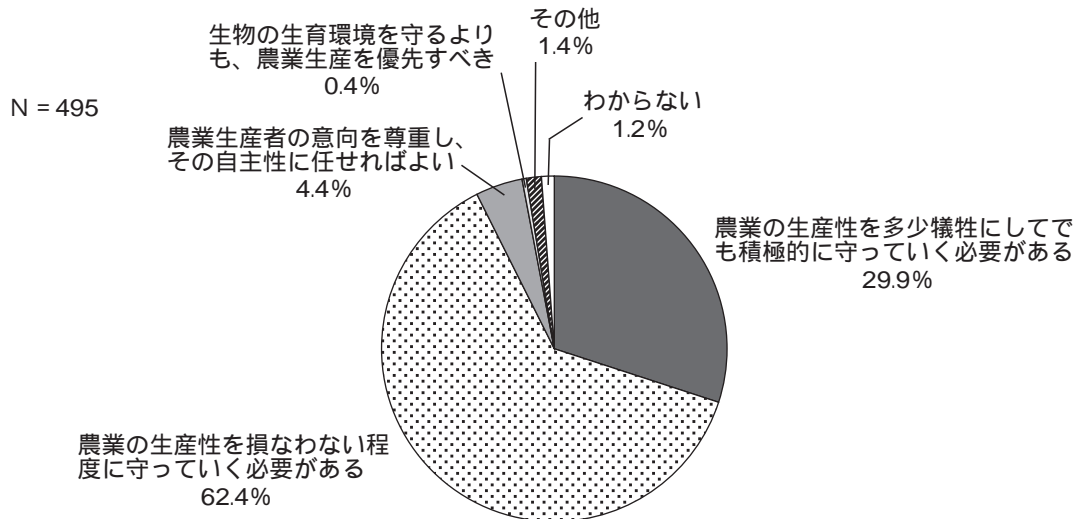
食育については、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせて“関心がある”と答えた人の割合が9割を超え、また、6割近い人が、食育を推進するためには「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)を正すこと」が重要と考えています。

本県では、平成18年度に策定した「あいち食育いきいきプラン ~愛知県食育推進計画~」に掲げた3つの方向「食を通じて健康な体をつくる」、「食を通じて豊かな心を育む」、「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」に則した様々な取組を、食育推進関係団体、食育推進ボランティア及び市町村等と連携し、さらに進めていきたいと考えています。(農林水産部食育推進課)

7 農林水産業に関する新たな動き

問11 最近の農業では、農薬や化学肥料の使用量を減らし、環境に及ぼす影響をできるだけ小さくするだけでなく、用水路に魚道を設けて水田で小魚などが育ちやすい環境を整えるなど、生物に配慮した取組が進められています。

あなたは、このような農業の取組によって、様々な生物の生育環境を守っていくことをどう思いますか。(回答は1つ)



農業の取組によって、様々な生物の生育環境を守っていくことをどう思うか尋ねたところ、「農業の生産性を多少犠牲にしても積極的に守っていく必要がある」が29.9%、「農業の生産性を損なわない程度に守っていく必要がある」が62.4%、「農業生産者の意向を尊重し、その自主性に任せればよい」が4.4%などとなっている。

「農業の生産性を多少犠牲にしても積極的に守っていく必要がある」と「農業の生産性を損なわない程度に守っていく必要がある」をあわせると、約9割の人が生物の生育環境を守っていく必要があると回答しています。

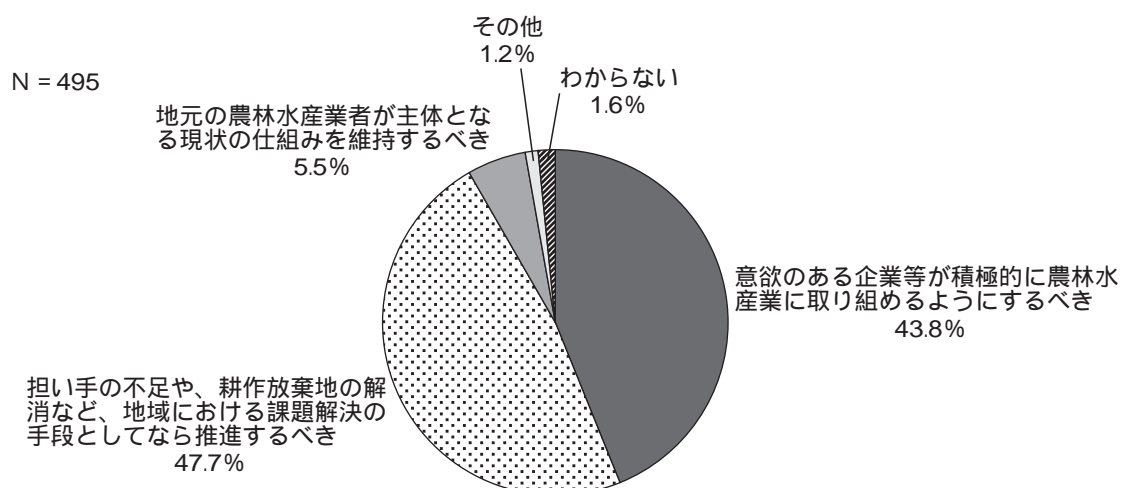
また、「農業の生産性を損なわない程度に守っていく必要がある」と回答した人の割合が62.4%と最も高くなっていることから、農業の生産性と生物の生育環境の保全を両立する技術の開発や取組を一層進める必要があると考えています。

(農林水産部農林政策課)

問12 農林水産業（第一次産業）へ新しく就業する人の数は減少傾向にあり、産地では働き手（担い手）の不足が心配されています。

このような状況の中で、一般の企業やNPOが農業へ新たに参入する事例が見られるようになってきています。

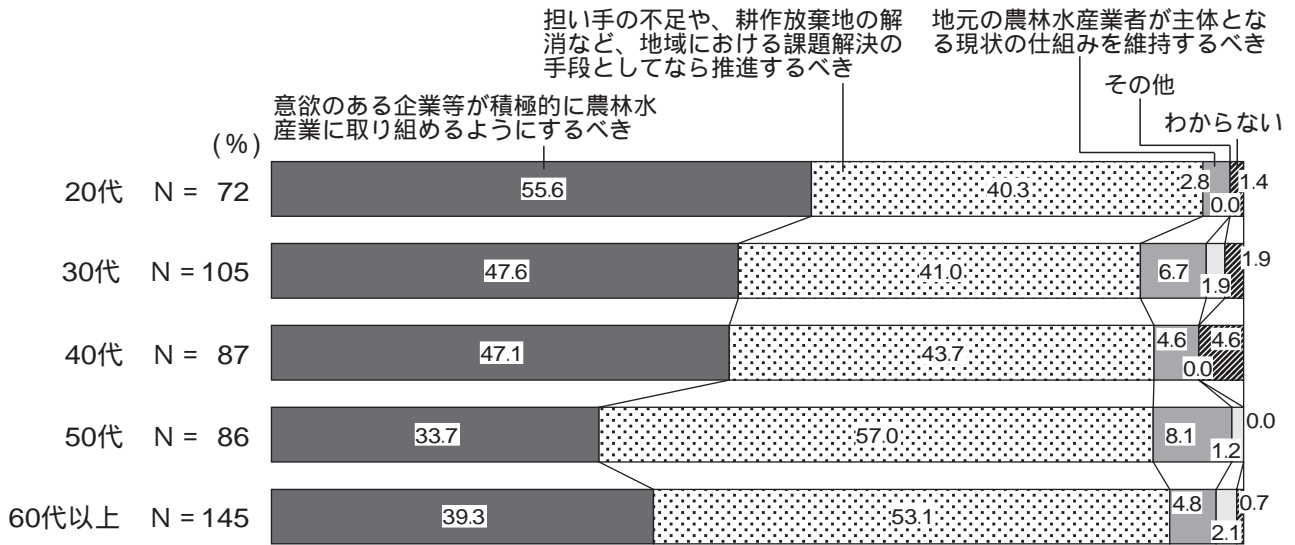
あなたは、企業等が農林水産業の担い手になることについてどう思いますか。（回答は1つ）



企業等が農林水産業の担い手になることについてどう思うかを尋ねたところ、「意欲のある企業等が積極的に農林水産業に取り組めるようにすべき」が43.8%、「担い手の不足や、耕作放棄地の解消など、地域における課題解決の手段としてなら推進するべき」が47.7%であるのに対し、「地元の農林水産業者が主体となる現状の仕組みを維持するべき」が5.5%となっている。

年代別にみると、「意欲のある企業等が積極的に農林水産業に取り組めるようにすべき」と答えた人の割合は、若い世代で高くなっている。

(年代別)



43.8%の人が「意欲のある企業等が積極的に農林水産業に取り組めるようにするべき」と回答しているほか、本アンケートの自由意見でも企業等の農業参入に関して多数のご意見をいただき、関心の高さがうかがわれます。

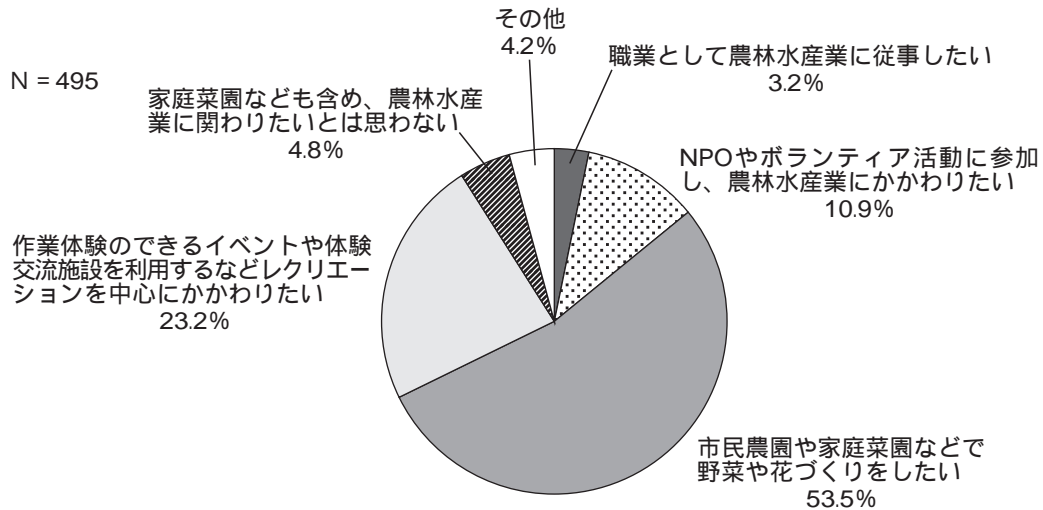
企業等の農業参入については、これまでも地域の理解が得られやすい地元の中小企業などが耕作放棄地を借りて営農に参加する事例がありましたが、平成21年6月に改正農地法が公布され(施行は公布後6ヶ月以内)、農地の借入れ要件が緩和されるため、今後、一層進むと考えられます。

本県では、農地制度の適切な運用を図るとともに、参入企業等が地域の農業と良好な関係を構築できるよう支援していく必要があると考えています。
(農林水産部農業振興課)

8 農林水産業への関わり

問13 あなたは、今後、農林水産業に関わるとしたら、どの程度関わっていきたいと思いますか。

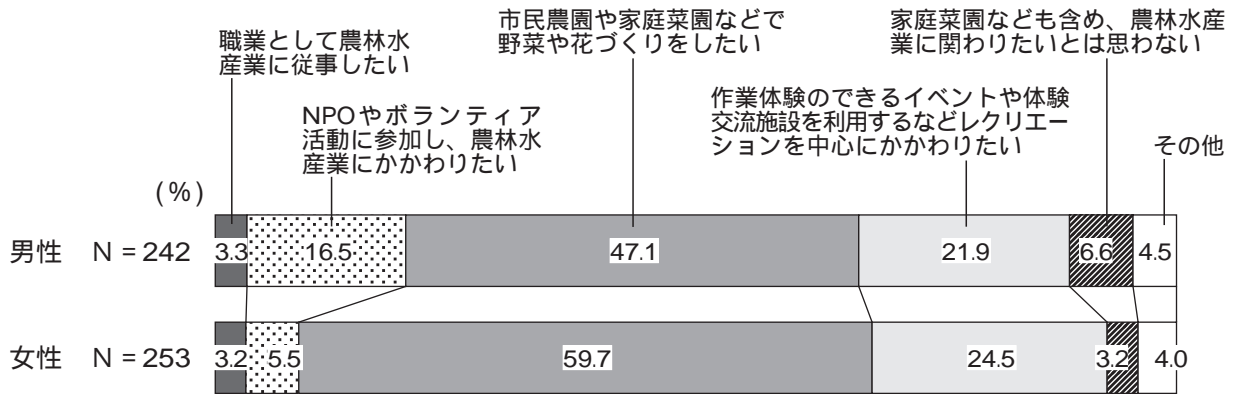
(回答は1つ)



今後、農林水産業に関わるとしたら、どの程度関わっていきたいと思うかを尋ねたところ、「職業として農林水産業に従事したい」が3.2%、「NPOやボランティア活動に参加し、農林水産業にかかわりたい」が10.9%、「市民農園や家庭菜園などで野菜や花づくりをしたい」が53.5%、「作業体験のできるイベントや体験交流施設を利用するなどレクリエーションを中心にかかわりたい」が23.2%、「家庭菜園なども含め、農林水産業に関わりたいとは思わない」が4.8%などとなっている。

男女別で比較すると、「NPOやボランティア活動に参加し、農林水産業にかかわりたい」と答えた人の割合は男性で、「市民農園や家庭菜園などで野菜や花づくりをしたい」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

(男女別)

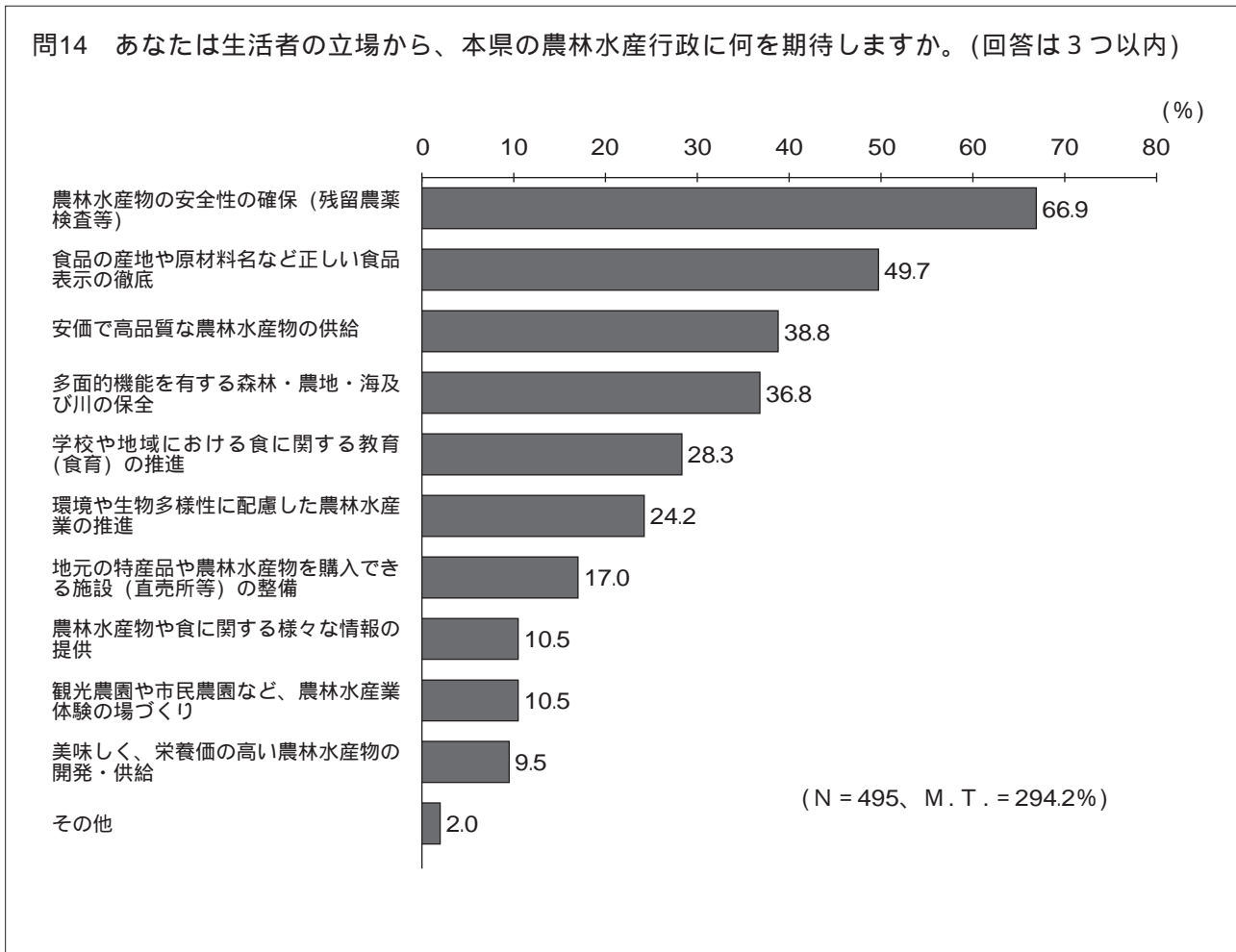


平成17年に実施した県政モニターアンケート調査と同様に、市民農園や家庭菜園などで野菜や花づくりをしたいと回答した人の割合が半分以上を占めています。

また、何らかの形で農林水産業へ関わりたいと考えている人の割合は9割を超えていますので、農林水産業に関するイベントや体験交流施設の情報などをホームページなどで積極的に発信し、県民のみなさんの興味や関心に応えられるよう努めていきたいと考えています。

(農林水産部農林政策課)

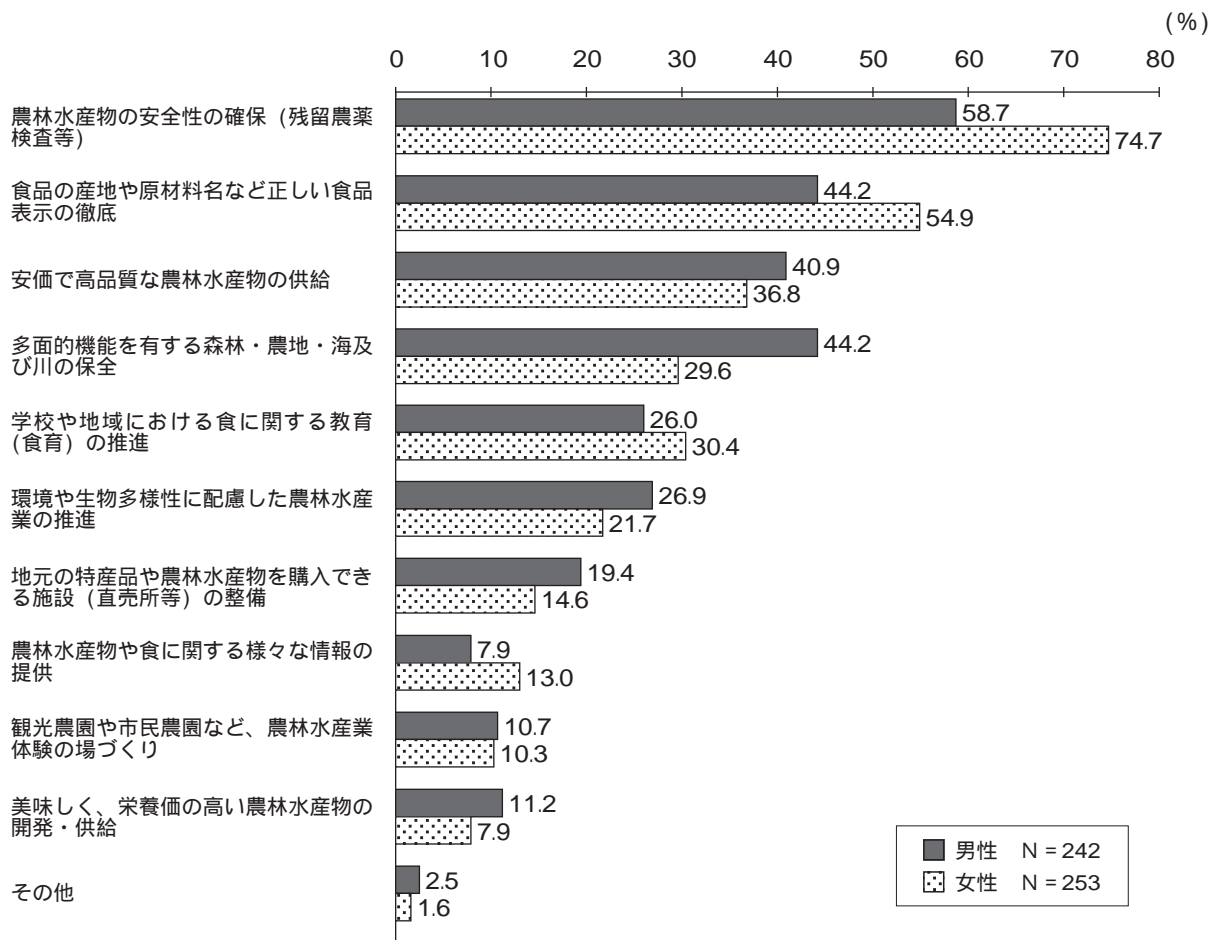
9 本県の農林水産行政への期待



生活者の立場から、本県の農林水産行政に何を期待するかを尋ねたところ、「農林水産物の安全性の確保 (残留農薬検査等)」が66.9%、「食品の産地や原材料名など正しい食品表示の徹底」が49.7%、「安価で高品質な農林水産物の供給」が38.8%、「多面的機能を有する森林・農地・海及び川の保全」が36.8%などとなっている。

男女別にみると、「多面的機能を有する森林・農地・海及び川の保全」と答えた人の割合は男性で、「農林水産物の安全性の確保 (残留農薬検査等)」、「食品の産地や原材料名など正しい食品表示の徹底」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

(男女別)



「農林水産物の安全性の確保」や「食品の産地や原材料名など正しい食品表示の徹底」と回答した人が多い結果になりました。これは、事故米の不正流通や食品の産地偽装など、食の安全安心を脅かす事件が相次いだためと考えられます。

安全で安心な食生活の実現は、豊かな暮らしの基本です。本県では豊かな暮らしを実現するため、平成17年に“食と緑の基本計画”を策定して各種施策を展開しています。

“食と緑の基本計画”は、平成22年に改定をしますが、今回のアンケートで皆様からいただいた貴重なご意見を、基本計画の改定に反映させていきたいと考えております。

今後とも愛知の農林水産業に興味・関心を持っていただくとともに、本県農林水産行政へのご理解とご協力をお願いします。

(農林水産部農林政策課)

10 自由意見

問15 本県の農林水産業について、ご意見・ご提案等があれば、自由にお書きください。

農林水産業について、自由に意見を記入していただいたところ、309件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 農林水産業の振興について	85
(2) 食の安全・安心について	26
(3) 森林・農地等の保全と多面的機能について	28
(4) 食料の自給と地産地消について	72
(5) 食育と農林漁業体験について	27
(6) 情報の発信と啓発について	37
(7) その他	34

(1) 農林水産業の振興について

実家は専業農家だが、米の価格は安く、一年の収入も少ない。国も県ももっと本腰を入れて取り組んで欲しい。後継者も現状では意欲を持って就農できない。

農業従事者には若い人が少なく、私の周りでも80代の高齢者が頑張っている。若い人が農業をやりたがらない理由は仕事が大変な割りに収入が少ないことだと思うので、県から補助金や物品の支給をして欲しい。

自然災害により丹精こめて作った作物がダメになってしまうことがあるが、そういう時に補助金を支給するなどして農業従事者の生活を守るような仕組みが必要だと思う。逆に、豊作の時に需給バランスを保つためにほ場で廃棄をしてしまうというニュースを見たが、そのような手法に対しても何らかの取組が必要だと思う。

農林水産業に携わる人たちが、未来に希望を持てるような取組を推進して欲しい。猫の目政策ではなく、20～50年後を見据え、自給率を70～80%にできるような、そして農林水産業に従事する人たちが普通の生活ができるような政策をせめて県政だけでも行って欲しい。

一次産業、特に農家への補償は慎重にすべき。他の産業でも厳しいのは変わらない。

愛知県が産業のバランスを図りながら発展するためにも、農林水産業を大切に、次世代へ受け継いでいけるようにしたい。一次産業への就労者が増えるよう、教育、地域づくり、そして暮らしの支援等を通して県民を励ます行政を期待する。

農林水産業は仕事がきつく、休みもなければ給料も少ない。最近はメディアで取り上げられてちょっとしたブームになっていたり、不況で仕方なく農業に従事する人がいたりするかもしれないが、好きで農林水産業に就く人は少ないのではないか。

実家が安城で農業をしているが、従事しているのは祖父や祖母で、その子どもや孫たちは皆会社員。祖父や祖母が亡くなったら田畑はどうなってしまうのか。田畑を持っていなくても、意欲のある人が農地を借りるなどして農業に従事できるようにして欲しい。

農業の大切さや自給率の低さは知っており、どうにかすべきと思うが、自ら農業をしたいとは思えない。それは職業として農林水産業は不安定で厳しく、一般の会社員の方が所得も良いから。生産者の手取りよりも流通のコストの方が高いなど、もっと生産者が優遇されないと担い手の高齢化はますます進む。

J A店舗の産直コーナーなど、家の近くに地元で取れた食材を購入できる施設があるが、高齢化により担い手が減り、耕作者のいない田もちらほらと見受けられるようになっている。行政で補助をして、継続的に作り続けられるような状態を作って欲しい。

定年退職して時間のある人達を対象に、農業に関心を持たせるような取組を推進して欲しい。また、新しく農業をやりたいが地域に馴染むのが難しい、いい農地が手に入らないといった問題もあることを新聞で読んだ。そういった問題を抱える人たちに、もっと積極的に支援をしてはどうか。

農家の高齢化による農業の衰退が心配。農協の業務である農家支援や物流面での工夫等により、農業が永続的に発展していけるよう努力をして欲しい。実際、零細農家では十分な収益を上げることが出来ないので、県が支援をして農業法人をつくり、失業者ややる気のある人材に農業指導等を行い、高品質・高付加価値な農産物の開発をしてはどうか。

担い手の減少を止めるためにも国が力を入れ、人材の確保と労働面の環境を整えることが重要。若い人たちが農業に就いてもらえるように給料を最低限確保し、農業の担い手を公務員がしてはどうか。

農林水産業の分野は、まだまだ旧態依然とした経営形態やしがらみが多く矛盾だらけ。グローバルな視点でものを見ていく必要がある。新規参入については大いに緩和すべき。

職に就くことのできない人が大勢いる。失業者が農林水産業に関われるよう努力をすれば、担い手不足と失業問題を同時に解決できて一石二鳥ではないか。そういった意味から意欲ある企業が農林水産業に参入（して雇用を生み出す）することは良いこと。

企業の一次産業への参入はある程度必要だと思うが、それによって従来の農家が追い詰められるような気がする。新規参入を進める一方で、個人農家との住み分けをうまく行うための法整備も検討して欲しい。

一次産業の重要性は理解しているが、実生活では価格などの経済的理由から県内産の農産物を敬遠（して安価な輸入農産物を購入）してしまう。国産農産物は人件費等が高く、輸入農産物よりも割高になってしまう。輸入農産物の安全性を確保することもひとつの手法だが、長期的に見れば国産農産物の価格水準を下げる必要があると思う。そのためには企業の農業参入を推し進め、市場原理がうまく働くようになればいいと思う。

意欲ある企業の農業参入を可能とする体制を早く整えるべき。現状のままでは愛知県の農業は衰退の一途をたどるのではないか。また、JAは本業以外の部分に力を入れすぎているのではないだろうか。

農地や山林の手入れを放棄し、荒地としてしまったら税金を高くし、手放すよう仕向ける仕組みを作り、一方でやる気のある若者や企業が容易に土地を手に入れることが出来るようにしてはどうか。

外国産に品質・価格の面から優位に立てる国内の生産体制を整えること。特に農地は共有制にして面的な集積を図り、生産性の向上に努めてはどうか。

農業収入だけでは十分な生活が保障されないため、兼業農家として農地を守るケースが多いが、その担い手も不在になれば耕作放棄となってしまう。行政の対策として、意欲ある個人や企業等の農業参入を積極的に支援し、農地を継続的に守って欲しい。

食料自給率が40%というが、現に荒地になって耕作者のいない農地があり、大変もったいないと思う。一方で農業に携わりたい人もいるのに農地がないという実情も。ミスマッチが問題だと思う。

農村に居住しており、毎日いちじくを作り畑へ出ているが、周囲には作付けの無い畑や休耕田があちこちある。スーパーへ行くと外国産の野菜などが沢山並んでいるが、この遊んでいる土地を有効に活用できるようにならないか。日本中で頑張って食料の自給率を上げられれば良いと思う。

自動車産業を始めとする工業との調和を図りつつ、農業の発展に期待する。愛知県は日本の中央に位置し、「日本のデンマーク」とも呼ばれる安城市のような農業の盛んな場所もある。自国の生産で食を確保できず、輸入ばかりに頼るとするのはおかしな話。

例えば東海市や西海市など、愛知はランの生産が日本一なので、王座を守って欲しい。

日本には農薬に頼らなくても美味しい農林水産物を作ることができる技術力があると本で読んだ。便利さゆえに農薬を大量に使用している現状を改めるためにも、より有効な最新の技術を情報提供すると良いと思う。

愛知県には全国的に名前の知れた農林水産物のブランドがないので、そういうものを作って欲しい。

日本の食べ物は美味しいという。愛知県にも美味しい食べ物が沢山あるので、外国に高く売れる果物等を作ってみてはどうか。

豊橋市は現在ウズラ問題で危機的状況に直面している。少しでも早く以前の生産水準に復帰できるよう積極的な行政支援をお願いしたい。

農林水産物は私達の生活に直接関わってくる大切なこと。生活が安全で安心できるためにも、生産性だけでなく環境のことを良く考える必要があると思う。

自然との共生なくして安全・安心な食の確保はありえない。ある意味で自然を破壊しながら栄えてきた工業から軸足をシフトして、自然の恵みを享受する農林水産物の支援を進めて欲しい。

大規模農家を対象とした支援だけでなく、小規模でも農業に参加する人への援助がもっとあれば、地産地消が進み、身近な環境の保全も図られると思う。

田原市の山間部で農業を営んでいる知り合いがいるが、ここ数年でイノシシやハクビシンが増え、

田畑が荒らされて大変とのこと。鳥獣との共存は難しい問題だと思う。

農業が見直され、人々も関心を払うようになってきているので、それを上手に活かして欲しい。以前イタリアに滞在したとき、とても身近に農業を感じた。そういう初歩的な部分も必要かもしれない。

食料は戦略物資であり自給率40%は大きな問題。意欲ある企業等の参入支援、所得の補償等の公的支援による農業従事者の確保、減反政策を改めるなどし、農業の活性化を図って欲しい。生命の根幹に関わる食の問題は非常に重要。世界人口も増大を続けているし、いざ事があってからでは遅い。

農業産出額が第5位と知り、工業・農業共に盛んであることに誇りを持った。これからも農林水産業に大いに興味を持って生活していきたい。

21世紀は里山で子どもを育てる時代だと思うので、奥三河に定住してもらうためにも、奥三河地域の各自治体と県との連携が望まれると思う。

私たちの生活にとって重要な位置を占める農林水産業だが、そのイメージは良くないと感じる。自然と向き合いながら仕事ができる素晴らしい点をもっとアピールしてはどうか。もっと創造力を発揮していくべき分野だと思う。

定年後の夫婦2人で家庭菜園を楽しもうと思うが、なかなか利用できる土地が見つからない。ドイツの「クライン・ガルテン」のような仕組みは中山間地域の振興にもなると思うので、もっと推進して欲しい。

農業を新たに始めようとする人がまず直面するのが、地元の抵抗。国全体がどうなるうとも、自分たちの既得権益だけは守ろうとするような人がいる。行政の働きかけに期待をしたい。

国の基本はやはり農林水産業。自然を守りつつ、人間の生きるための基本である食について、県民の意識の向上や生産者の育成に力を尽くして欲しい。

林業の振興について早急な対策を講じて欲しい。中山間地域の疲弊はやがて都市部の人々にも様々な影響を与える。しかし、山間部イコール開発や観光という発想ではやがて行き詰る。自立できる手法を確立しなくてはならない。

食の安全性を確保する、環境のことを考える、などは今や当たり前の事だと思う。それはどんどん進めていって、更に新しい問題にも取り組んで欲しい。国内のスギやヒノキのこともそう。余っているものが高い、使われないというのはおかしい話だと思う。

農林水産業が衰退するのは当然の成り行き。天候を始めとする制御の難しい要因に支配され、市場原理に馴染まない。理想や建前だけでは再建は到底おぼつかないと知るべき。

消費者重視の物づくりのため、季節に合わない時期に無駄なコストをかけて栽培するのは改めるべき。また、ダムの水に頼るのではなく、雨水の利用を検討するべき。三河湾と太平洋を水路で結び、三河湾を綺麗にして欲しい。

水と緑に恵まれた日本、農業王国愛知、愛知県から発信できる事はたくさんあると思う。食は生活の基本。若い世代が魅力を感じることでできる農林水産業へ発展することを期待する。

(2) 食の安全・安心について

農産物は、何といたっても口に入るものなので、何よりも安全性を優先するべきだと思う。その上で生産振興や消費拡大の各施策を実施すべきだと思う。

様々な食品で偽りの表示に関する騒動が起こり、消費者として何を信じて食品を購入すべきなのか悩んでしまう。真面目に農林水産業に携わっている人たちの努力が報われるよう、また、消費者としても安心して購入できるようになれば良いと思う。

食品の偽装が後を絶たない。食用には使えない米と分かっていて食用として売っていたというニュースを以前みたが、腹立たしいのを越えて怒りを感じた。こういうことをした会社には重い処罰をくだすべきだと思う。

食品の偽装表示問題。責任者が頭を下げれば終わってしまうように見える。偽装を告発されても犯罪意識が全く無く、自らの利益を求めようでは、事件も“人の噂も七十五日”で忘れ去られ、また犯罪を犯すかもしれない。もっと罪を重くして処分しなくてはならないのではないかと。

中国産ギョウザの事件以降、特に中国産の野菜や魚は一切食卓に上がらなくなった。国産の野菜や作物の安全性を、比較を含めてもっとアピールしても良いのではないかと。

韓国産や中国産のものを日本産と偽装する事件が頻発しているので、行政サイドからよく監視して欲しい。もちろん、韓国や中国のものであっても、食品添加物や薬物の使用が適切であれば排除する必要は無いと思う。

生産者はウソなどせず、自分の利益ばかり考えず、ちゃんとした物を作って欲しい。消費者はその商品がどこからどのようにして来たのか品物を見ただけでは分からず、生産者たちを信じるしかない。食への関心を深めるには信頼関係が大切だと思う。

地産地消を実施し安全・安心で安価な農産物を常時供給して欲しい。消費者である私たちは食の安全に関心を持ち、添加物の少ない物を選ぶなどの行動をするべき。

インスタント食品や菓子類など、色々と得体の知れないものがあまりにも沢山入り過ぎている。もっと自然の味に親しむ国になって欲しい。

直売所の残留農薬はきちんと調べられているのか。普段気にせずに買っているが、誰が責任を持って管理しているのか分からない。

(3) 森林・農地等の保全と多面的機能について

農地として登記しておきながら、住宅や工場を建てたりする悪質な違反をたまに聞く。このような事例には厳しい罰を与えるべき。また、補助金を使って整備した農地は40～50年は転用できないようにするべき。

税金のこともあるので土地を手放すことを責めるのも辛いですが、転用されて一度壊れた農地は元に戻らないから工場や宅地にならないように国や県がしっかり管理して欲しい。

都市近郊の里山にマンションが建設されたりする。里山は必要と反対運動を起こしても、合法的であれば土地所有者と建設会社の契約を行政も阻止できない。農地転用も同様で、土地の運用に行政が介入できる仕組みが無ければ自然や農地は次々失われていくと思う。

既に80歳を過ぎた老夫婦が、農業振興地域内にあるということで鳥獣害に耐えながら転作にも協力し、ほ場整備の基準にも満たないような段々の農地を維持管理している。農地保全の意味は十分理解できるが、実情を汲んだ運用をしてあげて欲しい。

新聞の特集で、県内の優良農地が工業用地に転用されたが、実際は活用されずに放置されている問題を知った。一度工業用地となった土地を肥沃な農地に戻すのは困難だと思われる。優良農地を保護し、農業者の生産活動を手厚く支援する必要があると思う。

新聞に掲載された農地の工業用地化について、行政の対応は事務的で到底納得できない。本来の農地開発の趣旨に鑑み、適切な対応を望む。日本の行政は一度決定したことを後戻りして修正対応することが無く、一般の県民から見て閉塞感がある。間違っただらばそれを正すことの出来るシステムや柔軟性を行政に求める。

宅地開発が進み、郊外の田畑がどんどん住宅になっている。戦後農地を貰った農家が、金銭と引き換えに農地を売ってしまっただけなのか。

市街化区域内では特に放置された農地が目立つ。条例等を制定して、もう少しきれいに活用する方法はないか。

土地は個人の物ではなく国のもの。国家があってはじめて個人が認められる。農地行政について、国はもっと真面目に方向性を示す必要がある。

山の放置による乱れが気になる。間伐などにボランティアを活用し取り組んでいると思うが、山の現状をもっと県民にアピールして欲しい。

家の周りの田んぼが減り、夜に窓を開けても熱風が入ってくることもある。昔はもう少しやさしい自然の風が入ってきたように思う。自然と私達の生活の関わりをそんなところに感じる。

農林水産業が有する多面的機能については、積極的な社会的支援・公的負担が必要ではないか。大都市におけるヒートアイランド対策としてビルやマンション等の屋上緑化・農園化を進めることは、都市農業の新分野の開拓であり、新たな産業・雇用につながると思う。

田植えも終わり、子どもと田んぼを見に行っただ。おたまじゃくし、どじょう、めだか等、小川で泳ぐ生物を見て、これからも守っていきたく思った。一方で、外来種の大きいタニシが沢山おり、真っ赤な卵が水路の壁についていて不思議に感じた。少しずつ変わる環境に驚いた。

愛知用水の地中への配管工事が行われているが、地表面に水辺があることは生態系の維持に大切なことではないか。例えばため池には様々な昆虫・魚・鳥が生きていて、私達の生活を影から支えている。

(4) 食料の自給と地産地消について

自給率を高めることが現状から考えると大切。積極的に農業や漁業を守り、食品の安全を確保することが重要。

県の自給率向上に対する取組として、県施設の食堂では地元産の食材を利用する、学校給食にも地元食材を利用して経費を補助する、県発注の公共事業は県産の木材を使うなどといった、県民にも無駄づかいと思われることのない関わり方もあると思う。

最近スーパーの鮮魚売り場では魚の形の残っている物が少なくなった。日本人が魚を食べてくれないという話を聞くと、日常生活で1匹800~900円もしては、なかなか食べたい魚も食べられない。

コンビニエンスストアの弁当などが捨てられるのは許されることではないと思う。食べ残しをしないことや、売れ残りは堆肥化するなどの仕組みが必要だと思う。

愛知県の米は愛知産とわかりやすいが、野菜や果物などは分かりにくい場合がある。県内では(愛知県産であることを)もっとアピールできるキャラクターやマークがあると良いと思う。

いいともあいち運動の存在を初めて知った。このような活動は良いことだと思う。身近な人にも広めたい。

いいともあいち運動は単なる運動のやりっぱなしになること無く、具体的な目標を定めて県民にPRし、盛り上げて行って欲しい。

地産地消のため、生産者が売やすく消費者が買いやすい場所の確保が必要だと思う。そのような拠点があることで地域の農産物などに触れる機会が増え、興味や関心も高まるのではないかと。

大府市には全国的に有名な「元気の郷」の特産物売場があり、新鮮で安い商品が多く消費者に人気がある。生産者の氏名もついていて安心できるので、このような施設が県内にたくさんできればよいと思う。

県の施設を利用して、フランスにあるような市場を整備してはどうか。地元の農家が利用しやすく、県施設の有効利用にもなる。

積極的に地産地消の長所をアピールし、推進していくべき。産直施設だけでなく、身近なスーパーなどでも地元産野菜をもっと取り扱えば、地産地消が進むのではないかと。

地産地消の取組は素晴らしいが、価格が高くては広まることはない。低価格での供給が可能であることを前提として考える必要があると思う。

愛知県産や国産の農産物を優先して買いたいと思うが、価格面で競争力がないと自然に淘汰されてしまう。愛知県産や国産の農産物を購入する消費者に対して何らかの特典を与えるなど、優遇制度を設けて欲しい。

買い物をするのは主婦が多いので、特に女性の(地産地消に対する)意識が高まるとよいと思う。店側も地元産のよい物を多く扱い、消費者から信頼される店づくりをして欲しい。

愛知県産をできるだけ選ぶようにしているが、安価な方を購入することも多い。数年前に伊良湖方面へ車で走った際、広大な畑で野菜が栽培され、収穫・運搬されていく様子を見て新鮮に感じた。

あのような光景を見せる旅行やツアーがあると、(参加した人は)何か気づく事があるかもしれない。

地元産の食材でまかなっているという緑ちょうちんのような取組を推進して欲しい。

地産地消の努力は大切だが、高齢化が進み、若い時のような生活の行動範囲が保てなくなっていく世代への対応を、流通方法を検討するなどして進めて欲しい。

(5) 食育と農林漁業体験について

食育は幼い頃からの教育が重要だと思うので、色々な形で伝えて欲しい。

家庭科で調理実習をする場合、食材を買うところから始めて、スーパーで売られている野菜や肉類がどこで作られたのかを話し合うなど、子どもの頃から関心を持たせる教育が必要だと思う。

実家は農家であったが、減反と土地改良政策で農地が減り、米を作っても利益の出ない時代になった。子どもたちは米や野菜がどこでどのように作られているのかわからない。食育の推進は是非行って欲しい。

学校では小学校1年生の時から感謝の気持ちを持って食べるように給食の時間に指導が行われており、とても大切な時間だと思う。

どのような食が体に良いのかをもっと啓発して欲しい。明治・大正の人は和食主体で長生きした。食の欧米化で成人病などの疾病が増えている。食育に関するテレビ番組を県が作ってもよいと思う。食の重要さをどんどん県民に知らせて欲しい。

愛知県は海あり、山ありの恵まれた環境にある素晴らしい県だと思う。未来を担う子ども達に、自然や文化と触れ合うことの出来る体験等を積極的にさせることが大切。

作業体験が出来るイベントがあれば是非息子と一緒に参加し、農業の大変さについて身をもって知ってもらい、食物を大切に作る心を養ってもらいたい。

親になってから農業環境と生活に関心を持った。小さい頃から学んでおけばもう少し早くから考えることが出来たと思う。

一昨年から近くの畑で家庭菜園をするようになり、採りたてのトマトやきゅうりが非常にみずみずしく美味しいことに気づいた。学校の授業や子ども会のイベントなど、気軽に農業体験ができるような環境づくりが必要だと思う。

休耕田が散見されるが、農地は積極的に活用するべき。空き地になっていると雑草が多くなり環境にも良くない。畑として使える空き地は家庭菜園等をやりたい人に貸して容易に利用できるような制度を作って欲しい。

農地が何も作られないで放置され、雑草が生えていても国からの補助金は出ているのか。(土地が無くて)畑や花壇づくりが楽しめない人から見ると理不尽に感じる。空いている田畑をもっと有効に利用できるようになると良い。

農産物の安全性が問われている昨今、都市住民でも自分で野菜作りをしたいと思う人は多い。し

かし、市民農園の数には限りがあり、競争率が高く中々利用できない。

都市部と農村部の交流を進め、子ども達に食物生産の大変さや大切さを伝えていくことが重要。子どもに教えるべき大人（親）にも同様に行わないと、現代の大人も知らないことが多いと思う。任意参加よりも教育として盛込まないと社会全体は動いていかない。

(6) 情報の発信と啓発について

愛知県の農業生産額が5位とは意外に高いと感じた。メディアでも愛知県の工業はよく取り上げるが一次産業ももっとPRするべきと感じた。

愛知県は工業県というイメージが強く、農林水産業が盛んなイメージが弱い。そういったイメージを払拭する取組が必要だと思う。県民に関心を持たせないと、愛知県の農林水産業に対する意見や提案は出てこない。

愛知県は農産物の宣伝が下手だと思う。愛知県産農産物の特徴やよい点、産地の様子、美味しい食べ方などをもっとPRすれば、県民ももっと愛知県の野菜などを購入するのではないかな。

愛知県は全国でも1位の生産を持つ野菜などがたくさんあり、もっとPRできるものがあるのではないかな。「安城のいちじく」など、地名と品目をブランドとして広めると効果的ではないかと思う。

愛知県は消費者と生産者が混住する県であり、他県ではあまり無いことだと思う。県内の生産者と消費者の交流を図ることで“地元意識”を向上させていって欲しい。

農林水産業が色々な意味で健やかであれば人も健やかに暮らせると思う。農地が減るにつれ、人は生きる糧となるものの実物や生育プロセス、それに伴う様々な体験や知恵を失い、人の成長が情報によるもののみとなり、偏りのある思考や人格形成をもたらしてしまうのではないかな。森林や水資源といった有限でかけがえのないものに対する啓蒙・教育活動の積み重ねがより良い未来のために大切ではないかな。

情報の提供だけでは提供する側の自己満足に終わってしまう。セミナーや講習会などの実践を通じた啓発活動により、農林水産業に関心を持つ人を増やしていくべきだと思う。

(7) その他

農林水産業は大自然を相手とし、農林水産行政は長い時間をかけて成果が発揮される地道な取組だと思う。長期計画の下に進んで行って欲しい。

農林水産業は私達の生活に最も身近に関わるものなので、工業と同様に注力していくべき産業だと思う。愛知県の良さがこれからも活かされる施策を期待する。

農林水産業の従事者と消費者を結びつける中間の人材が必要だと思う。体験教室やレクリエーショ

ンの開催支援、新しい人材の発掘や販売方法の開拓等のできる存在が必要。

中山間地域に移り住んでくるのは若い世代ではなく、老後を田舎で、といった世代が多い。若い世代は子どもの教育などを気にして田舎には移れなかったりするので、そのあたりの対策をして欲しい。

愛知県立農業大学校は定員を大幅に下回り、危急存亡の危機的状況にある。若い人材を育む拠点となる施設に学ぶ人をもっと積極的に受け入れる体制作りを推進する必要がある。

自動車産業を中心とした製造業中心の愛知県から環境・農林業へと舵をきるべき時代になったと思う。奥三河地域は今後第二東名の建設で農林業が衰退するかもしれない。都市部と山間部の人の交流がもっと盛んになって欲しい。楽しいイベントの開催や道の駅の整備などが必要だと思う。

我々が生活をしていく上で不可欠な農林水産業をもっと行政が支援していくべき。この分野は現状では担い手不足や収益性が低いなどの課題があるので、こういうところにこそ税金を使って支援するべきである。

質問と回答 (単位...「総数」：人、「総数」以外：%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

1 農林水産業に関する意識

問1 本県は、自動車産業に代表される工業が盛んな工業県のイメージがありますが、平成19年の農業産出額は全国5位を誇るなど、農林水産業（一次産業）も盛んな県です。あなたは、本県を含め、我が国の農林水産業に関することについて、どの程度、興味や関心がありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 大いに興味や関心がある	20.8	22.7	19.0	15.7	25.5	20.1	12.5	13.3	12.6	26.7	31.7
2 一定の興味や関心がある	22.4	27.7	17.4	26.1	17.0	25.3	25.0	13.3	25.3	24.4	24.8
3 あまり関心はない	54.3	46.7	61.7	56.2	54.3	52.6	54.2	68.6	60.9	48.8	43.4
4 興味や関心はない	2.4	2.9	2.0	2.0	3.2	1.9	8.3	4.8	1.1	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2 我が国の食料自給率と地産地消

問2 現在、我が国は世界中の国・地域から食料を輸入し、豊かな食生活を実現していますが、その一方で、日本のカロリーベースの食料自給率()は40%まで低下し、主要先進国中で最低となっています。あなたは、将来の我が国の食料供給のあり方について、どのようにすべきだと思いますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 外国産に比べて価格が多少割高でも、食料はできるだけ国内で自給をするべき	65.3	64.5	66.0	60.1	67.6	67.5	55.6	61.9	67.8	59.3	74.5
2 外国産に比べて価格が多少割高でも、主食であるコメだけはできるだけ自給をするべき	20.2	17.4	22.9	20.9	19.7	20.1	27.8	23.8	14.9	23.3	15.2
3 輸入したほうが安く手に入る食料は輸入し、そうでないものは自給をするべき	9.9	12.4	7.5	15.0	8.5	6.5	12.5	10.5	9.2	10.5	8.3
4 その他	4.6	5.8	3.6	3.9	4.3	5.8	4.2	3.8	8.0	7.0	2.1
5 わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問3 我が国では、戦後植林されたスギやヒノキ等の人工林が十分に生長し、伐採して利用することが可能な時期を迎えています。にもかかわらず、我が国の林業は採算性が低いとため、国産材は十分に利用されず、平成19年の木材の自給率は22.6%に止まり、国内で使用されている木材は安い外国産材が多くを占めています。あなたは、今後の我が国の木材の利用について、どのような姿が望ましいと思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 価格が多少割高でも、積極的に国産の木材を利用すべき	70.1	68.6	71.5	71.9	67.0	72.1	58.3	61.0	69.0	76.7	79.3
2 安い外国産の木材を主に利用する現状のままでよい。	13.9	14.9	13.0	17.6	15.4	8.4	29.2	16.2	12.6	10.5	7.6
3 その他	10.3	12.4	8.3	6.5	10.6	13.6	8.3	10.5	9.2	10.5	11.7
4 わからない	5.7	4.1	7.1	3.9	6.9	5.8	4.2	12.4	9.2	2.3	1.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問4 あなたは、次の農産物等の産地が明らかな場合、どのような産地を優先して購入しますか。

(1) 米の場合 (回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	13.7	12.4	15.0	6.5	16.0	18.2	2.8	10.5	20.7	14.0	17.2
2 国内産を優先する(愛知県産にはこだわらない)	75.4	75.6	75.1	80.4	73.4	72.7	81.9	76.2	66.7	76.7	75.9
3 外国産を優先する	0.4	0.4	0.4	0.0	1.1	0.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0
4 産地にはこだわらず価格を優先する	7.1	7.9	6.3	7.8	8.0	5.2	9.7	9.5	8.0	4.7	4.8
5 その他	3.2	3.3	3.2	4.6	1.6	3.9	4.2	2.9	4.6	4.7	1.4
6 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 野菜の場合(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	27.1	26.4	27.7	17.6	28.7	34.4	25.0	19.0	21.8	32.6	33.8
2 国内産を優先する(愛知県産にはこだわらない)	61.8	59.1	64.4	69.9	61.7	53.9	59.7	64.8	67.8	58.1	59.3
3 外国産を優先する	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
4 産地にはこだわらず価格を優先する	9.3	12.0	6.7	10.5	8.0	9.7	12.5	14.3	10.3	8.1	4.1
5 その他	1.4	2.1	0.8	1.3	1.1	1.9	2.8	1.0	0.0	1.2	2.1
6 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) 果物の場合(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	15.2	14.5	15.8	7.8	16.0	21.4	16.7	8.6	13.8	17.4	18.6
2 国内産を優先する(愛知県産にはこだわらない)	64.8	65.3	64.4	69.3	64.9	60.4	51.4	63.8	65.5	65.1	71.7
3 外国産を優先する	0.4	0.4	0.4	0.0	1.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7
4 産地にはこだわらず価格を優先する	15.8	15.7	15.8	17.6	14.4	15.6	26.4	22.9	14.9	16.3	5.5
5 その他	3.2	3.3	3.2	3.9	3.2	2.6	2.8	3.8	5.7	1.2	2.8
6 わからない	0.6	0.8	0.4	1.3	0.5	0.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 肉の場合(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	9.1	5.0	13.0	5.9	6.9	14.9	12.5	7.6	9.2	10.5	7.6
2 国内産を優先する(愛知県産にはこだわらない)	71.1	72.7	69.6	73.2	73.9	65.6	61.1	72.4	65.5	69.8	79.3
3 外国産を優先する	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
4 産地にはこだわらず価格を優先する	17.2	19.8	14.6	17.0	16.5	18.2	25.0	19.0	23.0	16.3	9.0
5 その他	2.0	1.7	2.4	2.6	2.7	0.6	1.4	1.0	2.3	2.3	2.8
6 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7

(5) 卵の場合 (回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	33.3	31.4	35.2	24.8	29.8	46.1	25.0	21.9	33.3	36.0	44.1
2 国内産を優先する (愛知県産にはこだわらない)	56.0	55.8	56.1	63.4	60.6	42.9	55.6	68.6	57.5	51.2	49.0
3 外国産を優先する	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
4 産地にはこだわらず価格を優先する	9.3	11.2	7.5	10.5	7.4	10.4	18.1	8.6	8.0	10.5	5.5
5 その他	1.0	0.8	1.2	0.7	1.6	0.6	0.0	1.0	1.1	2.3	0.7
6 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(6) 魚の場合 (回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 愛知県産を優先する	11.1	10.3	11.9	3.9	9.6	20.1	11.1	10.5	10.3	11.6	11.7
2 国内産を優先する (愛知県産にはこだわらない)	67.7	65.3	70.0	72.5	68.1	62.3	65.3	62.9	69.0	64.0	73.8
3 外国産を優先する	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
4 産地にはこだわらず価格を優先する	18.0	19.8	16.2	19.6	19.1	14.9	22.2	22.9	17.2	20.9	11.0
5 その他	2.8	3.7	2.0	2.6	3.2	2.6	1.4	3.8	3.4	2.3	2.8
6 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問5 愛知県は、名古屋市を始めとする大消費地と、農林水産物の生産地が近いという特徴があります。そこで、愛知県の農林水産業が果たしている役割を県民の方々に理解していただき、地元で取れた農林水産物を地元で消費する“地産地消”の取組として、「いいともあいち運動」を推進しています。あなたは、この「いいともあいち運動」を知っていましたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 運動についてよく知っている	5.3	5.4	5.1	5.9	5.9	3.9	5.6	2.9	4.6	4.7	7.6
2 少しは知っている (運動については良く知らないがマークは見たことがある等)	30.7	27.3	34.0	28.8	34.0	28.6	25.0	20.0	25.3	33.7	42.8
3 知らない	64.0	67.4	60.9	65.4	60.1	67.5	69.4	77.1	70.1	61.6	49.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3 農林水産業が有する多面的機能

問6 農林水産業や農山漁村には、食料等を生産する機能のほかに、洪水を防いだり、美しい景観を保つなどの多面的機能があります。あなたは、こうした多面的機能の中で、特にどのような役割を期待しますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 森林の土壌が降雨を貯留して河川の流量を安定させ、川や海の水質を浄化する水源かん養の役割	54.3	62.4	46.6	58.8	51.6	53.2	45.8	41.9	49.4	60.5	66.9
2 森林などが二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなどの環境を保全する役割	51.3	47.5	54.9	45.8	53.7	53.9	55.6	51.4	57.5	44.2	49.7
3 山崩れや洪水などの自然災害を防止する役割	38.2	32.2	43.9	41.8	39.9	32.5	43.1	46.7	32.2	34.9	35.2
4 緑地や景観などの美しい自然環境を維持する役割	17.4	19.0	15.8	19.0	16.0	17.5	11.1	21.0	18.4	19.8	15.9
5 農林水産業体験や自然体験などの教育実践の場を提供する役割	6.1	5.8	6.3	5.2	6.4	6.5	6.9	5.7	8.0	2.3	6.9
6 地域の祭りや郷土料理などの“伝統文化”を守り育てていく役割	3.6	3.3	4.0	2.6	4.3	3.9	6.9	4.8	3.4	1.2	2.8
7 都市住民にレクリエーションの場を提供する役割	2.2	1.7	2.8	2.0	1.6	3.2	1.4	4.8	2.3	3.5	0.0
8 多様な生態系を育み、様々な生物が生息する場を提供する役割	24.0	26.4	21.7	22.9	23.9	25.3	23.6	21.0	23.0	31.4	22.8
9 その他	0.4	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.2	0.0
10 特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.4	0.0	0.8	0.0	0.5	0.6	1.4	0.0	1.1	0.0	0.0

4 中山間地域における農林水産業の振興

問7 本県の奥三河地域などの中山間地域では、傾斜地が多く農地が狭いなど条件が厳しいため、農林業の担い手が育たず過疎化や高齢化が進み、耕作放棄地や手入れが行き届かない森林が増加したり、サルやイノシシなどの野生鳥獣に農林水産物が食べられてしまうなどの様々な問題に直面しています。あなたは、中山間地域における農林水産業について、今後どのような対応をすべきと考えますか。

(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 農道や林道の整備、鳥獣害対策などを進めることで、農林水産業をしやすい環境を整える	33.1	30.2	36.0	34.6	33.5	31.2	40.3	25.7	31.0	36.0	34.5
2 新しく農林水産業等をはじめ意欲のある者がスムーズに就業できるよう支援する	62.0	61.6	62.5	69.9	60.6	55.8	66.7	66.7	60.9	54.7	61.4
3 集落機能の維持を図るため、公的負担(交付金など)による集落への支援を充実させる	17.4	18.2	16.6	17.0	18.1	16.9	22.2	17.1	11.5	19.8	17.2
4 森林の持つ多面的機能を高めるため、公的負担(森と緑づくり税)による間伐などの森林整備を進める。	28.7	31.4	26.1	30.1	21.8	35.7	16.7	21.0	28.7	33.7	37.2
5 地域の特産品の開発支援や、農産物等を販売する産地直売所や道の駅などの施設を充実させる	27.9	27.3	28.5	22.9	31.4	28.6	22.2	30.5	26.4	33.7	26.2
6 グリーンツーリズムなどの都市と農村の交流を進める	21.0	21.1	20.9	19.0	23.9	19.5	23.6	25.7	26.4	17.4	15.2
7 その他	2.2	3.7	0.8	1.3	2.1	3.2	2.8	2.9	2.3	0.0	2.8
8 特にない	0.8	1.2	0.4	0.7	0.5	1.3	0.0	2.9	1.1	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 農地の保全

問8 愛知県は、名古屋市を中心とする大都市圏にありながら、消費者に近い場所でも農業生産が行われています。この生産活動を続けるためには優良な農地が欠かせませんが、一方では、住宅や工場を始めとする様々な用途のための土地も必要とされています。あなたは、現在農地となっている土地の保全や利用についてどう思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 農地には、食料の供給を始め重要な機能があるので、積極的に農地として保全していくべき	39.6	36.0	43.1	39.9	35.1	44.8	33.3	44.8	39.1	32.6	43.4
2 どちらかといえば農地の保全を重視しつつ、バランス良く土地の利用を図るべき	42.2	44.2	40.3	41.2	45.2	39.6	37.5	40.0	42.5	53.5	39.3
3 どちらかといえば工業や商業の発展を重視しつつ、バランス良く土地の利用を図るべき	7.3	8.7	5.9	8.5	6.4	7.1	12.5	3.8	9.2	4.7	7.6
4 国際的にも競争力がある本県の工業や商業を積極的に優先して土地の利用を図るべき	2.0	2.1	2.0	2.0	3.2	0.6	5.6	2.9	0.0	1.2	1.4
5 農地として保全するかどうかは土地所有者に任せるべき	6.1	6.2	5.9	6.5	5.9	5.8	8.3	6.7	5.7	3.5	6.2
6 その他	1.6	2.1	1.2	0.7	2.7	1.3	1.4	0.0	1.1	4.7	1.4
7 わからない	1.0	0.8	1.2	1.3	1.1	0.6	0.0	1.9	2.3	0.0	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

6 食育の推進

問9 あなたは、「食育」に関心がありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 関心がある	54.5	46.3	62.5	48.4	56.9	57.8	51.4	52.4	52.9	50.0	61.4
2 どちらかといえば関心がある	38.8	44.6	33.2	40.5	40.4	35.1	44.4	38.1	41.4	40.7	33.8
3 どちらかといえば関心がない	5.7	7.4	4.0	9.2	2.7	5.8	4.2	7.6	5.7	8.1	3.4
4 関心がない	0.8	1.7	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0	1.9	0.0	1.2	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7

問10 あなたは、「食育」を推進するためには、何が重要であると思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)を正すこと	56.8	51.2	62.1	54.9	59.6	55.2	62.5	56.2	62.1	54.7	52.4
2 肥満ややせすぎを防ぐこと	4.8	6.6	3.2	7.2	2.1	5.8	8.3	10.5	1.1	2.3	2.8
3 生活習慣病(糖尿病、高血圧、脂質異常症等)の増加を食い止めること	30.5	35.5	25.7	30.1	26.6	35.7	34.7	28.6	24.1	29.1	34.5
4 食品の安全性に関する理解を深めること	32.1	26.4	37.5	32.7	29.8	34.4	31.9	24.8	35.6	40.7	30.3
5 子どもの心身の健全な発育を守ること	35.4	33.1	37.5	31.4	41.0	32.5	34.7	46.7	41.4	23.3	31.0
6 農林水産業への関心や理解を深められるような体験活動を推進すること	13.3	14.9	11.9	14.4	13.3	12.3	5.6	10.5	11.5	18.6	17.2
7 食にまつわる地域の文化や伝統を守ること	9.3	9.9	8.7	6.5	11.2	9.7	13.9	11.4	8.0	11.6	4.8
8 消費者と生産者間の交流や信頼関係を構築すること	13.1	17.4	9.1	15.0	12.2	12.3	5.6	10.5	13.8	15.1	17.2
9 海外からの輸入に依存しすぎない食料供給の仕組みをつくること	23.0	20.7	25.3	22.2	25.0	21.4	20.8	15.2	17.2	23.3	33.1
10 自然の恩恵や食に対する感謝の念を育むこと	29.1	28.5	29.6	30.1	31.9	24.7	29.2	37.1	29.9	30.2	22.1
11 自然環境と調和した食料生産を広めること	9.9	11.2	8.7	13.1	7.4	9.7	12.5	4.8	9.2	8.1	13.8
12 大量の食べ残しなど食品廃棄物を減らすこと	34.1	36.4	32.0	33.3	32.4	37.0	31.9	35.2	37.9	31.4	33.8
13 その他	1.4	0.8	2.0	1.3	2.1	0.6	0.0	1.0	1.1	1.2	2.8
14 わからない	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0

7 農林水産業に関する新たな動き

問11 最近の農業では、農薬や化学肥料の使用量を減らし、環境に及ぼす影響をできるだけ小さくするだけでなく、用水路に魚道を設けて水田で小魚などが育ちやすい環境を整えるなど、生物に配慮した取組が進められています。あなたは、このような農業の取組によって、様々な生物の生育環境を守っていくことをどう思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 農業の生産性を多少犠牲にしても積極的に守っていく必要がある	29.9	31.4	28.5	31.4	28.2	30.5	20.8	32.4	34.5	36.0	26.2
2 農業の生産性を損なわない程度に守っていく必要がある	62.4	60.7	64.0	61.4	63.8	61.7	65.3	59.0	55.2	60.5	69.0
3 農業生産者の意向を尊重し、その自主性に任せればよい	4.4	4.1	4.7	5.9	3.7	3.9	12.5	2.9	4.6	2.3	2.8
4 生物の生育環境を守るよりも、農業生産を優先すべき。	0.4	0.4	0.4	0.7	0.0	0.6	0.0	0.0	1.1	1.2	0.0
5 その他	1.4	2.1	0.8	0.7	2.1	1.3	0.0	3.8	1.1	0.0	1.4
6 わからない	1.2	1.2	1.2	0.0	1.6	1.9	0.0	1.9	3.4	0.0	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 農林水産業（第一次産業）へ新しく就業する人の数は減少傾向にあり、産地では働き手（担い手）の不足が心配されています。このような状況の中で、一般の企業やNPOが農業へ新たに参入する事例が見られるようになってきています。あなたは、企業等が農林水産業の担い手になることについてどう思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 意欲のある企業等が積極的に農林水産業に取り組めるようにすべき	43.8	47.5	40.3	46.4	41.5	44.2	55.6	47.6	47.1	33.7	39.3
2 担い手の不足や、耕作放棄地の解消など、地域における課題解決の手段としてなら推進すべき	47.7	43.4	51.8	43.1	51.1	48.1	40.3	41.0	43.7	57.0	53.1
3 地元の農林水産業者が主体となる現状の仕組みを維持すべき	5.5	5.8	5.1	5.9	4.8	5.8	2.8	6.7	4.6	8.1	4.8
4 その他	1.2	1.7	0.8	2.0	1.1	0.6	0.0	1.9	0.0	1.2	2.1
5 わからない	1.6	1.2	2.0	2.0	1.6	1.3	1.4	1.9	4.6	0.0	0.7
無回答	0.2	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0

8 農林水産業への関わり

問13 あなたは、今後、農林水産業に関わるとしたら、どの程度関わっていきたいと思いますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 職業として農林水産業に従事したい。	3.2	3.3	3.2	3.3	2.7	3.9	2.8	1.9	4.6	1.2	4.8
2 NPOやボランティア活動に参加し、農林水産業にかかわりたい。	10.9	16.5	5.5	9.8	10.6	12.3	8.3	8.6	9.2	14.0	13.1
3 市民農園や家庭菜園などで野菜や花づくりをしたい	53.5	47.1	59.7	51.0	59.0	49.4	56.9	48.6	55.2	54.7	53.8
4 作業体験のできるイベントや体験交流施設を利用するなどレクリエーションを中心にかかわりたい。	23.2	21.9	24.5	26.1	21.3	22.7	25.0	30.5	26.4	22.1	15.9
5 家庭菜園なども含め、農林水産業に関わりたいとは思わない。	4.8	6.6	3.2	5.9	2.7	6.5	4.2	7.6	3.4	3.5	4.8
6 その他	4.2	4.5	4.0	3.9	3.7	5.2	2.8	2.9	1.1	4.7	7.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

9 本県の農林水産行政への期待

問14 あなたは生活者の立場から、本県の農林水産行政に何を期待しますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	495	242	253	153	188	154	72	105	87	86	145
1 農林水産物の安全性の確保(残留農薬検査等)	66.9	58.7	74.7	63.4	68.6	68.2	70.8	62.9	71.3	67.4	64.8
2 食品の産地や原材料名など正しい食品表示の徹底	49.7	44.2	54.9	50.3	50.5	48.1	52.8	51.4	49.4	52.3	45.5
3 安価で高品質な農林水産物の供給	38.8	40.9	36.8	41.2	35.1	40.9	33.3	38.1	40.2	38.4	41.4
4 学校や地域における食に関する教育(食育)の推進	28.3	26.0	30.4	24.2	31.4	28.6	37.5	33.3	29.9	20.9	23.4
5 多面的機能を有する森林・農地・海及び川の保全	36.8	44.2	29.6	39.2	34.0	37.7	27.8	34.3	31.0	41.9	43.4
6 環境や生物多様性に配慮した農林水産業の推進	24.2	26.9	21.7	21.6	27.7	22.7	25.0	20.0	24.1	23.3	27.6
7 地元の特産品や農林水産物を購入できる施設(直売所等)の整備	17.0	19.4	14.6	18.3	16.5	16.2	16.7	17.1	14.9	15.1	19.3
8 美味しく、栄養価の高い農林水産物の開発・供給	9.5	11.2	7.9	9.2	10.6	8.4	6.9	9.5	6.9	10.5	11.7
9 農林水産物や食に関する様々な情報の提供	10.5	7.9	13.0	14.4	8.0	9.7	6.9	6.7	13.8	15.1	10.3
10 観光農園や市民農園など、農林水産業体験の場づくり	10.5	10.7	10.3	12.4	10.6	8.4	6.9	15.2	11.5	11.6	7.6
11 その他	2.0	2.5	1.6	2.0	1.1	3.2	0.0	2.9	1.1	0.0	0.7
12 特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成21年度第2回県政モニターアンケート報告書

「農林水産業の現状と将来に向けた取組」
平成21年10月発行
愛知県知事政策局広報広聴課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話(052)954-6168(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

